

BladeSymphony BS500

サーバブレードセットアップガイド

BS500014-15

登録商標・商標

HITACHI, BladeSymphony, Cosminexus, HiRDB, JP1, Virtage は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。

Intel, Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft, Windows, Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

発行者情報

株式会社日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号

発行

2020年9月（第15版）

著作権

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright © Hitachi,Ltd.2012,2020,All rights reserved.

目次

はじめに	5
お知らせ	6
重要なお知らせ	6
システム装置の信頼性について	6
規制・対策などについて	6
このマニュアルで使用している記号	7
安全にお使いいただくために	8
安全に関する注意事項	8
安全に関する共通的な注意について	9
操作や動作は	9
自分自身でもご注意を	9
一般的な安全上の注意事項	9
オペレーティングシステム（OS）の略称について	15
構築・運用支援ツールとの連携	16
1. サーバブレードの設定	17
1.1 IP アドレスの設定	18
2. サーバブレードの起動・停止（Basic モード）	23
2.1 起動方法	24
2.2 停止方法	26
2.2.1 サーバブレードのシャットダウン	26
2.2.2 サーバブレードの電源 OFF	28
3. サーバブレードの起動・停止（HVM モード）	33
3.1 起動方法	34
3.1.1 サーバブレードの設定	34
3.1.2 システム装置へのケーブル接続	35
3.1.3 Web コンソールへの接続	36
3.1.4 EFI の設定	37
3.1.5 HVM ファームウェアの選択	40
3.1.6 HVM の初期設定	43
3.1.7 HVM の起動	46
3.1.8 LPAR の作成	48
3.1.9 ブートオーダーの設定	52
3.1.10 構成情報の保存	57
3.1.11 LPAR の起動	59
3.2 停止方法	60

3.2.1 LPAR の停止	60
3.2.2 HVM の停止	63



はじめに

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。

このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

- お知らせ
- このマニュアルで使用している記号
- 安全にお使いいただくために
- オペレーティングシステム (OS) の略称について
- 構築・運用支援ツールとの連携

お知らせ

重要なお知らせ

- ・ 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複製することは固くお断わりします。
- ・ 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- ・ 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ この製品には、RSA Data Security からライセンスを受けたコードが含まれています。

システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。

高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例

- ・ 化学プラント制御・医療機器制御・緊急連絡制御等

規制・対策などについて

電波障害自主規制について

電波障害自主規制については、次の説明文をお読みください。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

電源の瞬時電圧低下対策について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 準用品について

JIS C61000-3-2 準用品とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値(1 相当りりの入力電流が 20A 以下の機器)」を準用し、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。

輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。なお、この装置に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンやシステム装置はオフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのシステム装置の中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのシステム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・ データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・ 「削除」処理を行う
- ・ 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ・ ソフトで初期化（フォーマット）する

などの作業をすすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows®などのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このシステム装置のハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。システム装置ユーザが、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

ハードディスクのデータを消去するユーティリティは、『CLEAR-DA』、『CLEAR-DA RAID』などがあります。詳細は担当営業へお問い合わせください。

制限

『CLEAR-DA』は、CDより起動させて使用します。

本システム装置については、別途USB外付けCD装置が必要となります。

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示すアイコンを使用します。

アイコン	ラベル	説明
 警告	警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	通知	これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損傷を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 重要	重要	重要情報や追加情報、および装置やソフトウェアの制限事項を説明します。
 参考	参考	より効率的に業務を行うために、知っておくと役に立つ情報や指針となる情報を説明します。

このマニュアルでは、次に示す記号を使用しています。

記号	意味
[] (角括弧)	GUI 操作の説明 メニュータイトル、メニュー項目、タブ名、およびボタンの名称を示します。メニュー項目を連続して選択する場合は、[] を「-」(ハイフン) でつないで説明しています。 キー操作の説明 キーの名称を示します。
斜体文字	可変値であることを示します。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項

この項で説明する安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害をひき起こす隠れた危険に注意を喚起するために用いられます。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルの後に続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告

これは、死亡または重大な傷害をひき起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



注意

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害をひき起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。

通知

これは、人身傷害とは関係のない損害をひき起こすおそれのある危険の存在を示すのに用いられます。



【表記例 1】感電注意

⚠の図記号は注意していただきたいことを示し、⚠の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】分解禁止

⊘の図記号は禁止事項を示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。なお、⚠は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- ・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- ・ 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- ・ 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お問い合わせ先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的な安全上の注意事項

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



電源ケーブルの扱い

電源ケーブルは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出し、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因になります。

- 物を載せない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- コードに傷がついた状態で使用しない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを濡れた手で触らない

なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、コンセントの周りには物を置かないでください。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。



電源コンセントの扱い

- 電源コンセントは接地型 2 極差し込みコンセントをご使用ください。その他のコンセントを使用すると感電や火災の原因になります。
- コンセントの接地極は、感電防止のために、アース線を専門の電気技術者が施工したアース端子に接続してください。接続しないと、万一電源の故障時などに感電するおそれがあります。



電源プラグの抜き差し

電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コードを引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。



電源モジュールについて

電源モジュールは、高電圧部分があるためカバーを開けないでください。感電や装置の故障の原因になります。



電源スロットカバーの取り付け

電源ユニットの取り外し時、手や工具を内部に差し入れないでください。また、取り外し後は電源スロットカバーを取り付けてください。電源スロット内部には導体が露出した部分があり、万一手や工具などで触れると感電や装置の故障の原因になります。



異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源を切り、装置のすべて（最大4本）の電源プラグをコンセントから抜いてください。



修理・改造・分解

本書の指示にしたがって行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因になります。特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一手をさわると危険です。



カバー・ブラケットの取り外し

カバー・ブラケットの取り外しは行わないでください。感電ややけど、または装置の故障の原因となります。



電源モジュールのカバーの高温について

電源モジュールは動作時カバーやハンドルが熱くなっています。障害が発生したモジュールを交換する場合などご注意ください。やけどをするおそれがあります。



10GBASE-R トランシーバの高温について

1/10Gbps LAN スイッチモジュールの10GBASE-R トランシーバは、動作時に熱くなっています。トランシーバの取り外しは、マネジメントモジュールから10Gbps LAN スイッチモジュールの電源を停止してから約5分以上、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。



装置内部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。本マニュアルで指示のない限り装置内部品の追加・交換は、電源を切った直後約30分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。



レーザー光について

- 本製品に搭載されているレーザーは、クラス1レーザー製品です。レーザー光を直視しないようにしてください。光学器械を用いてレーザー光を見ないようにしてください。
- レーザーモジュールのカバーを外すと、レーザー光が発射されています。使用していないボードのカバーは外さないようにしてください。



製品の取り扱い

- 製品は固定したラックに搭載してください。製品に寄りかかったり、上に乗ったりしないでください。また、床や壁などが弱い場所には設置しないでください。
- 過度な振動は与えないでください。落ちたり倒れたり、故障の原因となります。



ラック搭載について

- システム装置をラックキャビネットに取り付けたり取り外したりする場合は、必ず2人以上で作業を行い、無理をせず器具などを使用してください。また、ラックキャビネットの31U以上にシステム装置を取り付けたり、取り付けられている場合は、作業は行わず、保守員にお任せください。取り付け不備によりシステム装置が落下し、怪我をしたり装置が故障するおそれがあります。
- ラックキャビネットから装置を引き出して作業を行う場合、必ずラックキャビネットにスタビライザーを取り付けてください。無理な力がかかるとラックキャビネットが転倒し、怪我や故障の原因となります。取り付けられていない場合は保守員をお呼びください。



ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを柵または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下による怪我の原因となります。



金属など端面への接触

装置の移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。けがをするおそれがあります。



不適切なバッテリー

不正な種類のバッテリーと交換すると爆発の危険があります。
使用済みのバッテリーは指示にしたがって廃棄してください。



電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などでけがの原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない



バッテリーの保管

バッテリーを保管する際は、バッテリー端子に接着テープを貼付して絶縁してください。絶縁しないと、端子同士の接触によりショートして、過熱や破裂を引き起こすことがあり、怪我や火災につながります。



装置内部への異物の混入

通気孔などから、内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないください。そのまま使用すると、故障の原因になります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると故障の原因になります。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないください。内部の温度が上昇し、故障の原因になります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないください。短絡が起きて故障の原因になります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると装置の故障の原因となります。すぐに電源を入れたりせず、使用する場所で数時間そのまま放置し、室温と装置内温度がほぼ同じに安定してからご使用ください。

たとえば、5℃の環境から25℃の環境に持ち込む場合、2時間ほど放置してください。



周辺機器の増設や接続

マニュアルの説明にしたがい、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器をご使用ください。それ以外のものを使用すると、接続仕様の違いにより周辺機器や装置の故障の原因になります。



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。



強い磁気の発生体

磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。システム装置の故障の原因になります。



ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは精密機械です。ご使用にあたっては、大切に取り扱いってください。取り扱い方法によっては、ハードディスク故障の原因になります。



障害ディスクについて

障害ディスクの交換では、操作手順の誤りや交換ディスクの故障などにより、データが破壊されるおそれがあります。交換の前にデータのバックアップを取ってください。



アルミ電解コンデンサ

アルミ電解コンデンサは有寿命部品です。耐用期間を過ぎた製品は使用しないでください。耐用期間を過ぎた製品を使用した場合、電解質の漏洩や消耗により、発煙や感電を引き起こすことがあります。こうした危険な状況を起こさないために、所定の耐用期間を過ぎた有寿命部品は交換してください。



分電盤

分電盤は出入り口付近に設置して、コンピュータシステムのデバイスを保護し、緊急時の電源遮断器として使用してください。



信号ケーブルについて

- ケーブルは足などをひっかけないように配線してください。足をひっかけるとけがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。



電源を切る前に

- 電源操作は決められた手順にしたがって行ってください。決められた手順に従わずに電源を入れたり切ったりすると、システム装置の故障の原因になります。
- 電源を切る前に、装置に接続するすべてのデバイスが停止していることを確認してください。装置の稼働中に電源を切ると、装置が故障したり、データが消えることがあります。
- シャットダウンを必要とする OS を使用している場合は、電源を切る前に必ずシャットダウンを終了してください。シャットダウン終了前に電源を切ると、データが消えることがあります。



ラック搭載時の注意

- **周囲温度の上昇について**

閉鎖型或いはマルチユニット型組み立てラックへ装置を搭載する場合は、装置稼働時のラック内温度が室内周辺温度より高くなる場合があります。装置の最大定格周囲温度を超えないようご注意ください。

- **エアフローの低下について**

装置をラックに搭載する際は、装置の安全稼働に必要なエアフロー量が低下しないようご注意ください。

- **リフターによる搭載について**

装置をリフターでラック搭載する際は、高低差のない水平な場所で作業を行い、危険な状態とならないようご注意ください。

- **過負荷について**

装置への給電を行う際には、過電流による回路の遮断や電源ケーブルの発熱にご注意ください。このため、定格に十分注意して使用することが必要です。

- **接地の接続**

ラック搭載装置は、常に確実なアース接続を行ってください。分岐回路(例: テーブルタップ)への電源接続で接地接続されない装置では、特にご注意ください。

オペレーティングシステム (OS) の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

また、Service Pack については記載していません。

- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版 (以下 Windows Server 2012 Standard)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版 (以下 Windows Server 2012 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版 (以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版 (以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Enterprise)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacente 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Datacente)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-bit 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Standard 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-bit 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Enterprise 32-bit)
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-bit 日本語版 (以下 Windows Server 2008 Datacenter 32-bit)

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter
Windows Server 2008 R2	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2008 R2 Datacenter
Windows Server 2008	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 Datacenter Windows Server 2008 Standard 32-bit Windows Server 2008 Enterprise 32-bit Windows Server 2008 Datacenter 32-bit
Windows Server 2008 64bit 版	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 Datacenter
Windows Server 2008 32bit 版	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2008 Standard 32-bit Windows Server 2008 Enterprise 32-bit Windows Server 2008 Datacenter 32-bit

構築・運用支援ツールとの連携

サーバブレードの設定から、サーバブレードの起動・停止は次の構築・運用支援ツールを使っても実行できます。

- HCSM
- JP1/SC/BSM

サーバブレードの設定

この章では、Web コンソールを用いたサーバブレードに IP アドレスを設定する方法について説明します。

□ 1.1 IP アドレスの設定

1.1 IP アドレスの設定

サーバブレードの IP アドレスは、 マネジメントモジュールから設定することができます。 IP アドレスの装置出荷時の設定は以下のとおりです。

IP アドレスの装置出荷時の設定

モジュール名	IP アドレス	サブネットマスク
サーバブレード 0~7	0.0.0.0	0.0.0.0

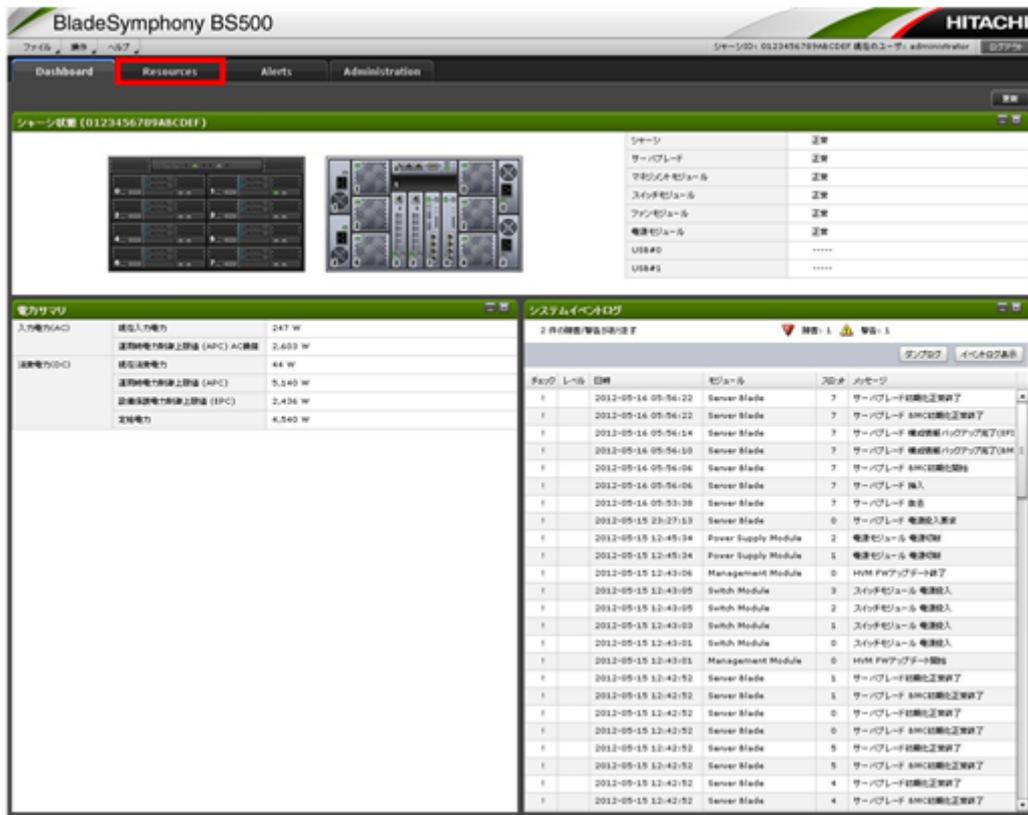
1. Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、 Web ブラウザに[https://マネジメントモジュールの IP アドレス/]を入力します。 BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、 BS500 Web コンソール管理ツールを起動して、 マネジメントモジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力します。

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443

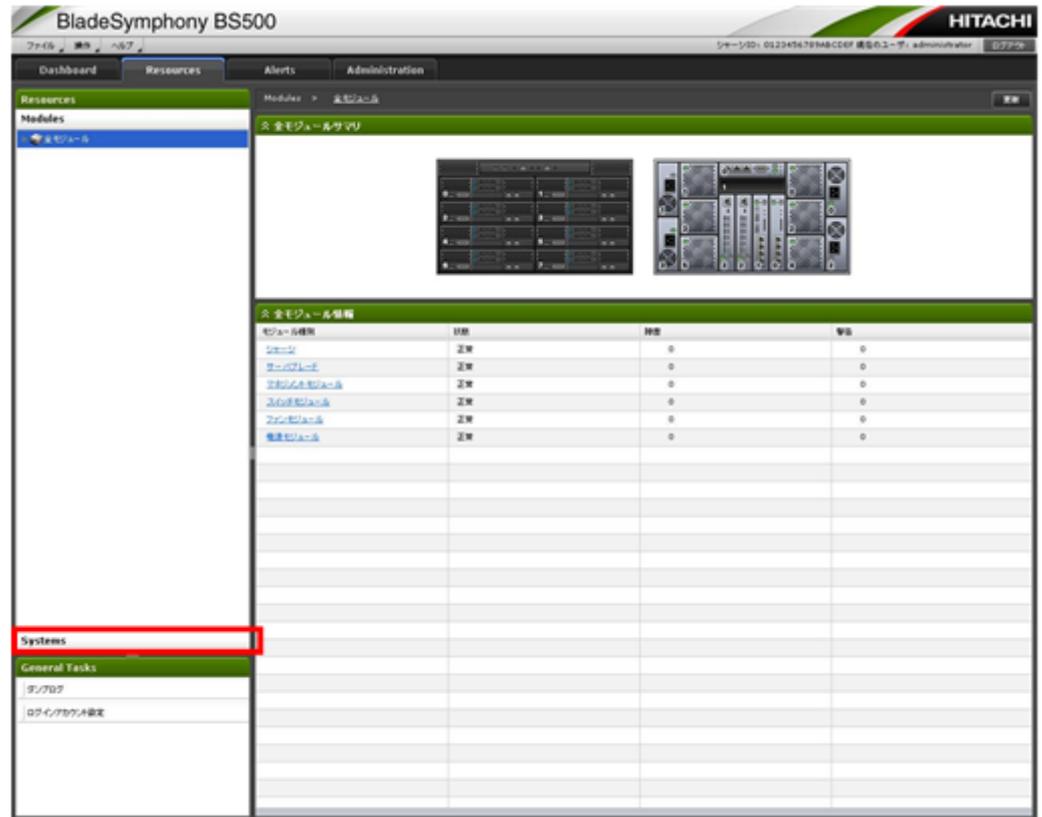
2. マネジメントモジュールの Web コンソールに Login します。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

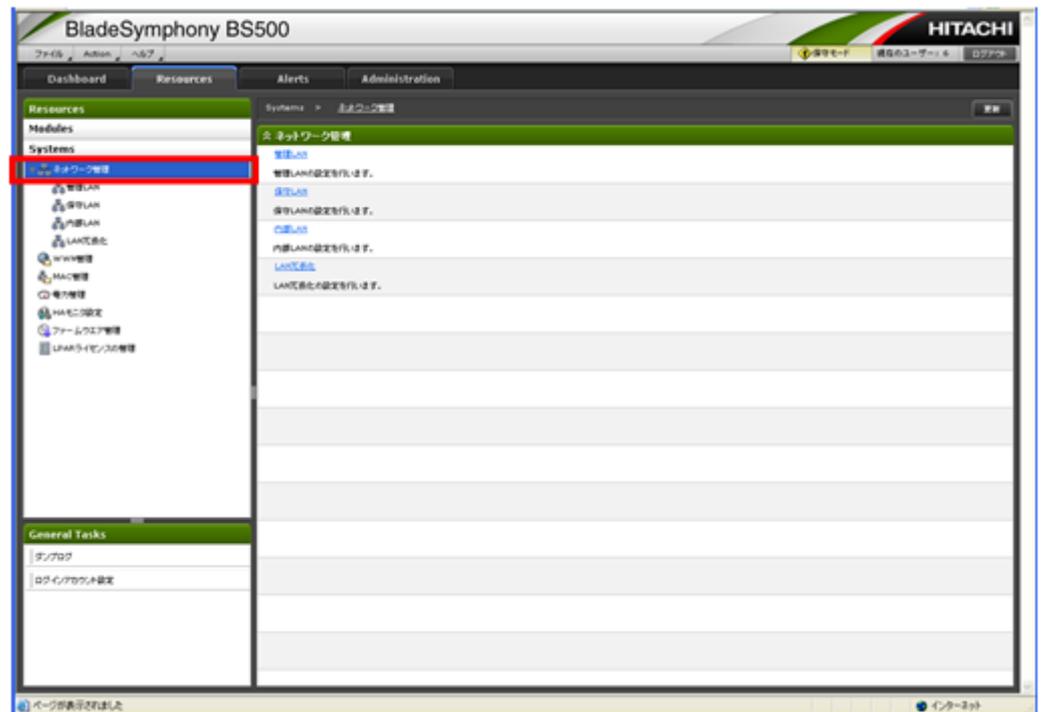
3. Login に成功すると、 Web コンソールメニュー画面が表示されますので、 [Resources] タブをクリックします。



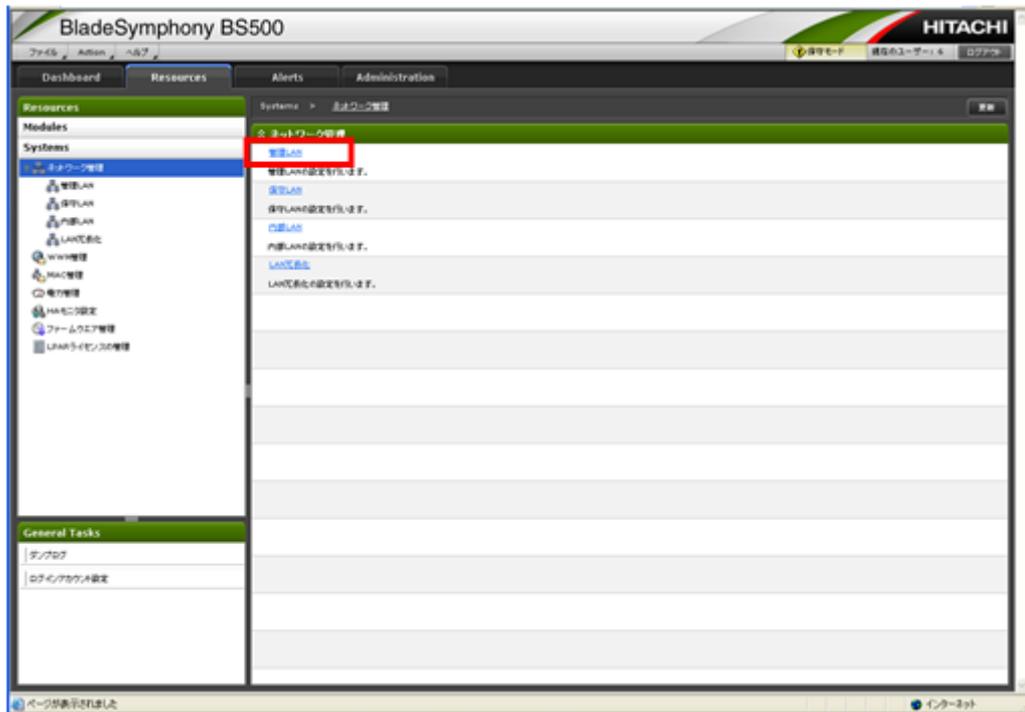
- [Systems]タブをクリックします。



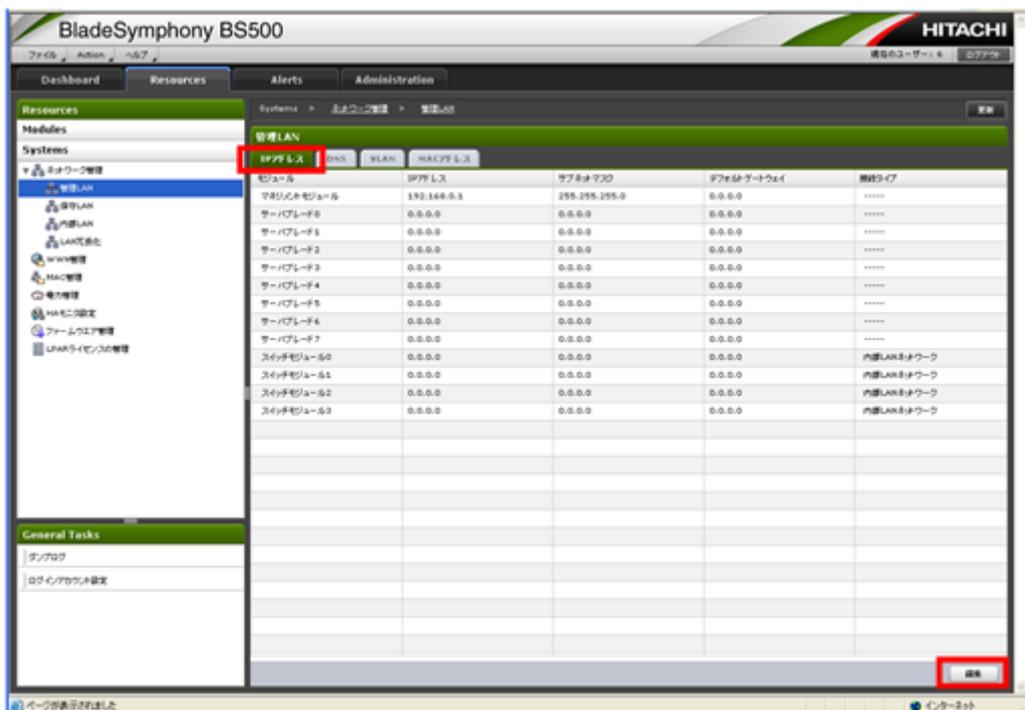
- [ネットワーク管理]タブをクリックします。



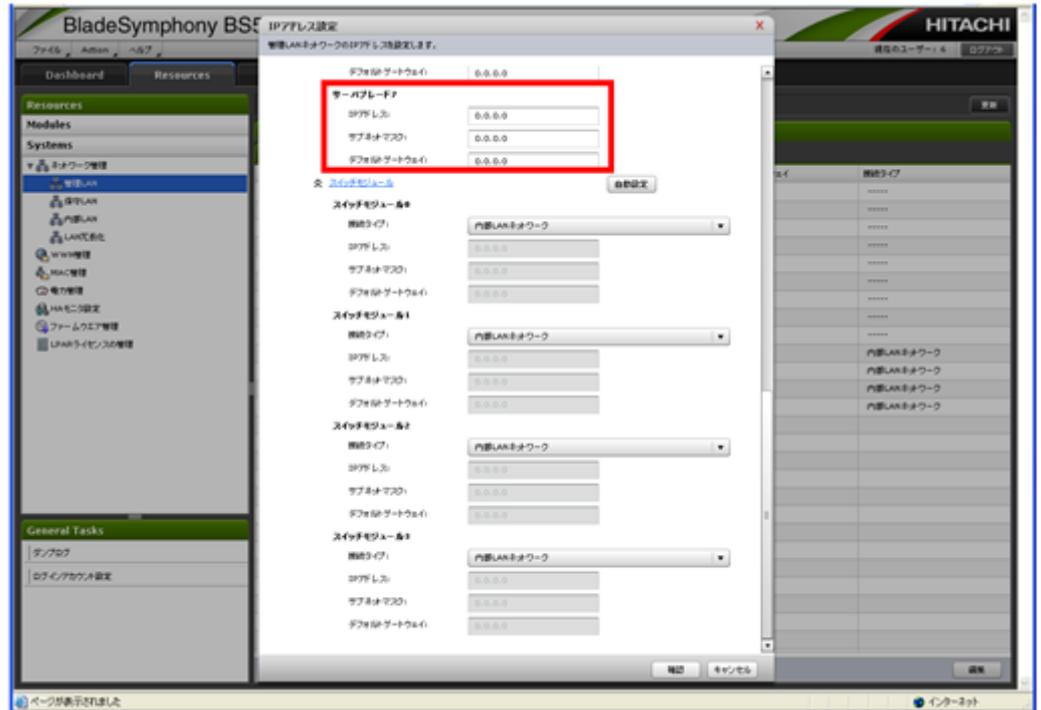
6. [管理 LAN]をクリックします。



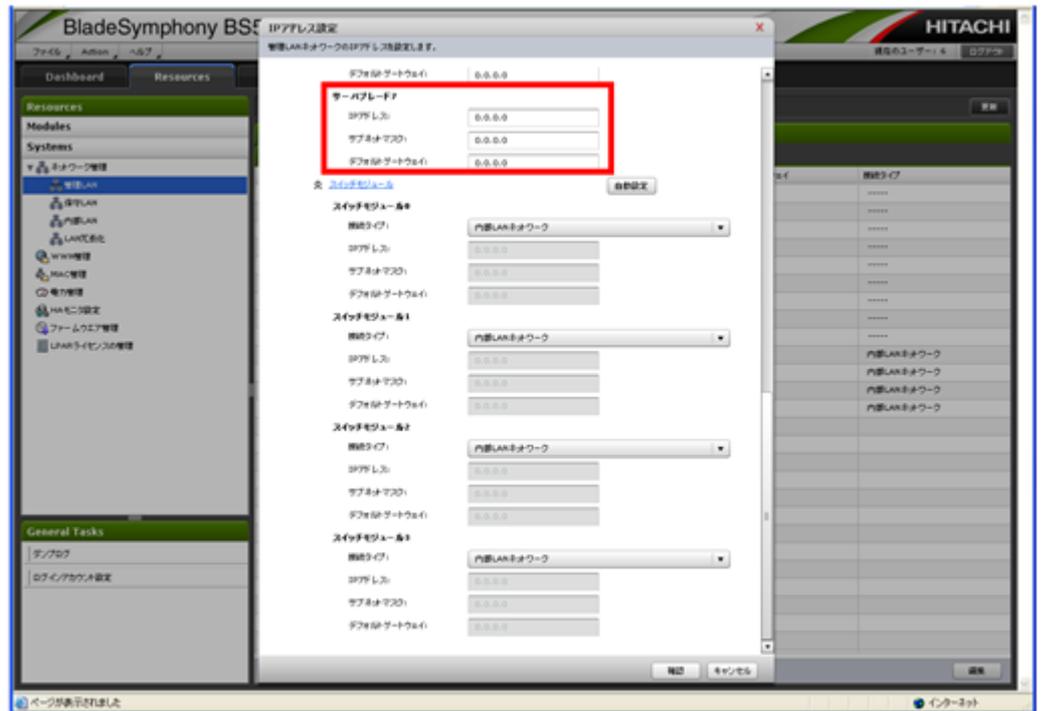
7. [IP アドレス]タブの[編集]ボタンをクリックします。



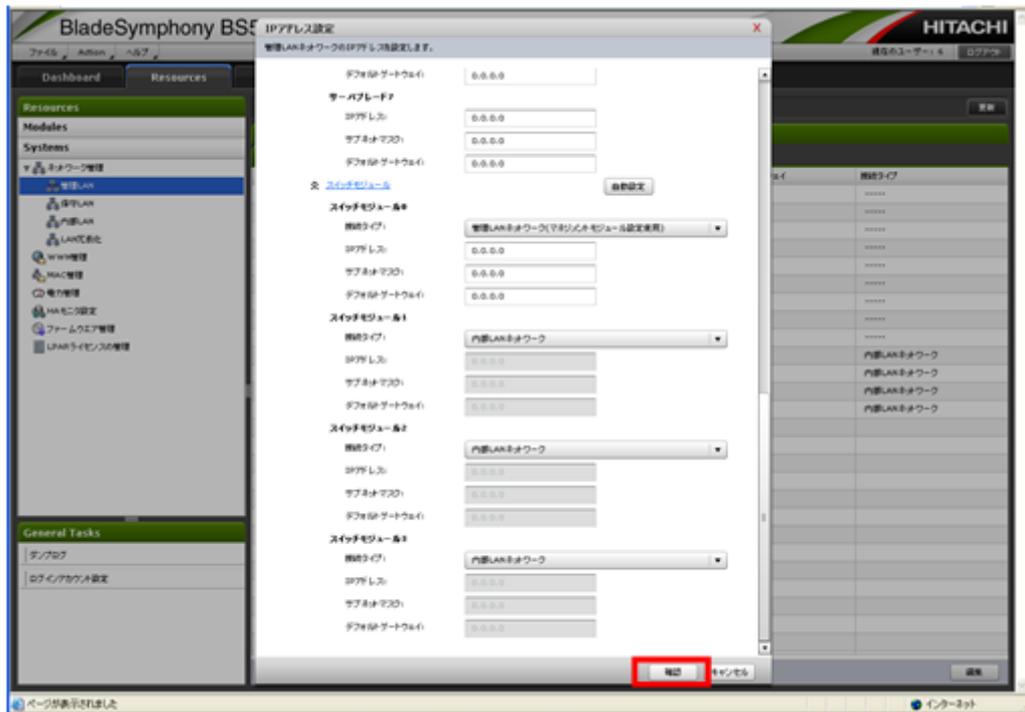
- [IP アドレス設定]ダイアログボックスのスクロールバーをスライドさせて、設定したいサーバブレードを表示します。



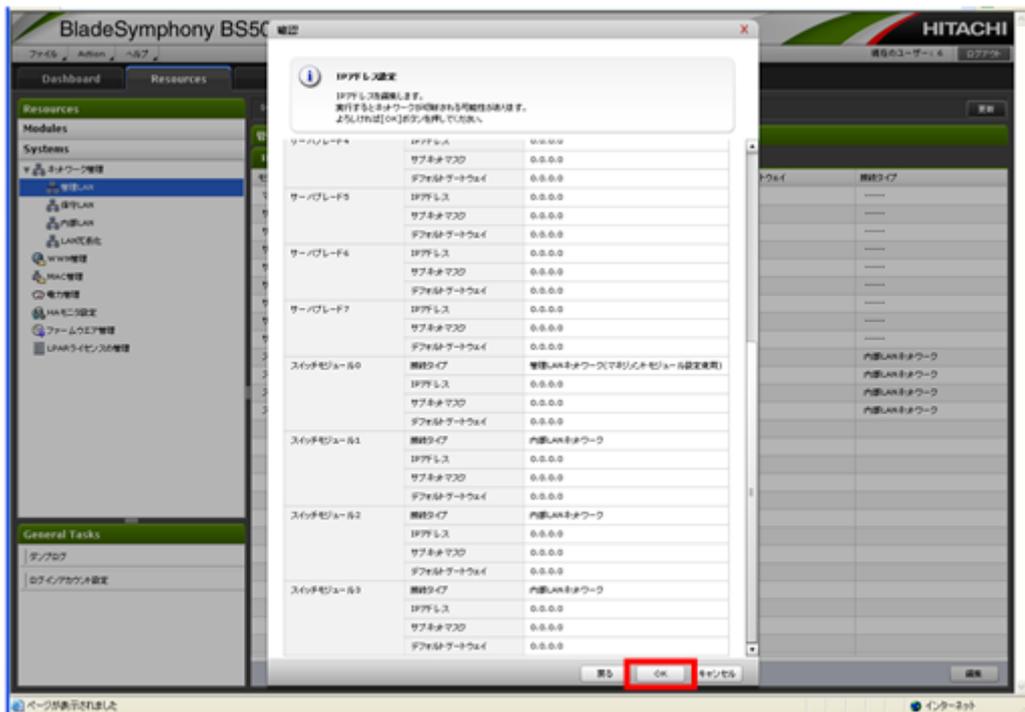
- サーバブレードの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。



10. [確認]ボタンをクリックします。



11. [確認]ダイアログボックスが表示されますので、サーバブレードの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



サーバブレードの起動・停止（Basic モード）

この章では、Web コンソールを用いた Basic モードでのサーバブレードの起動・停止方法について説明します。

- [2.1 起動方法](#)
- [2.2 停止方法](#)

2.1 起動方法

ここでは、サーバブレードの起動方法について説明します。

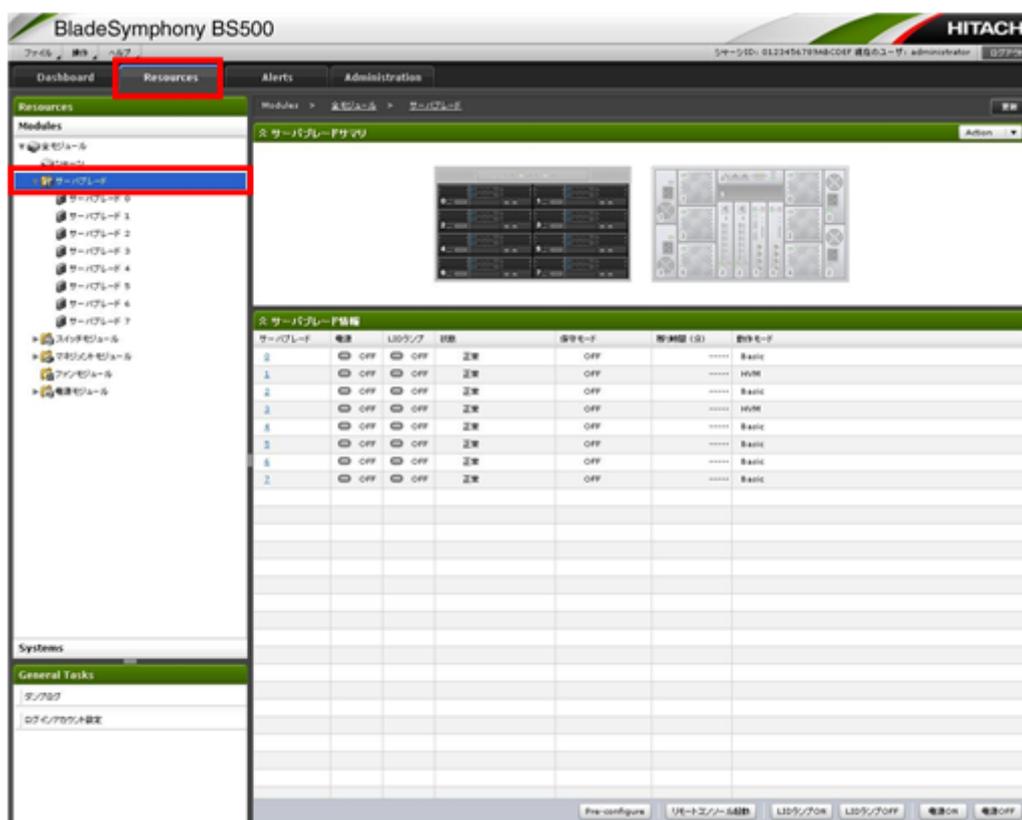
1. Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、Web ブラウザに[https://マネジメントモジュールの IP アドレス/]を入力します。BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、BS500 Web コンソール管理ツールを起動して、マネジメントモジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力します。

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443

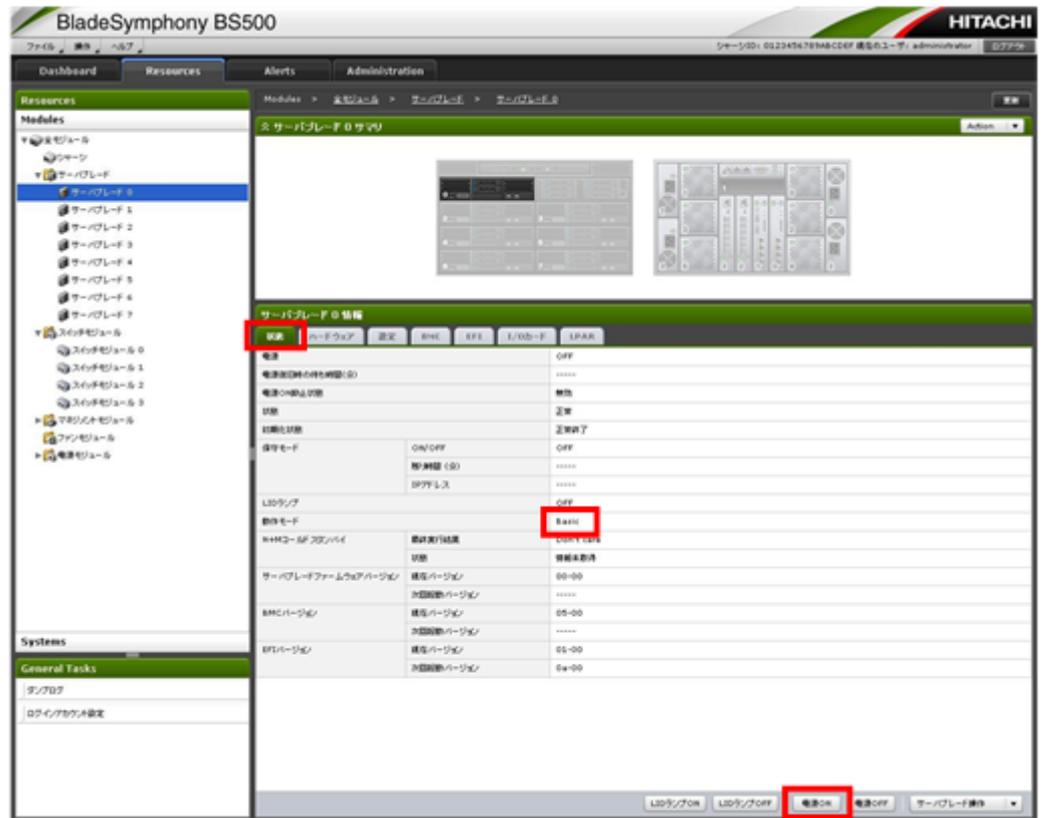
2. マネジメントモジュールの Web コンソールに Login します。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

3. メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーから、サーバブレードを選択します。



4. 起動するサーバブレードを選択し、動作モードが **Basic** となっていることを確認した上で、[状態]タブの[電源 ON]ボタンをクリックします。

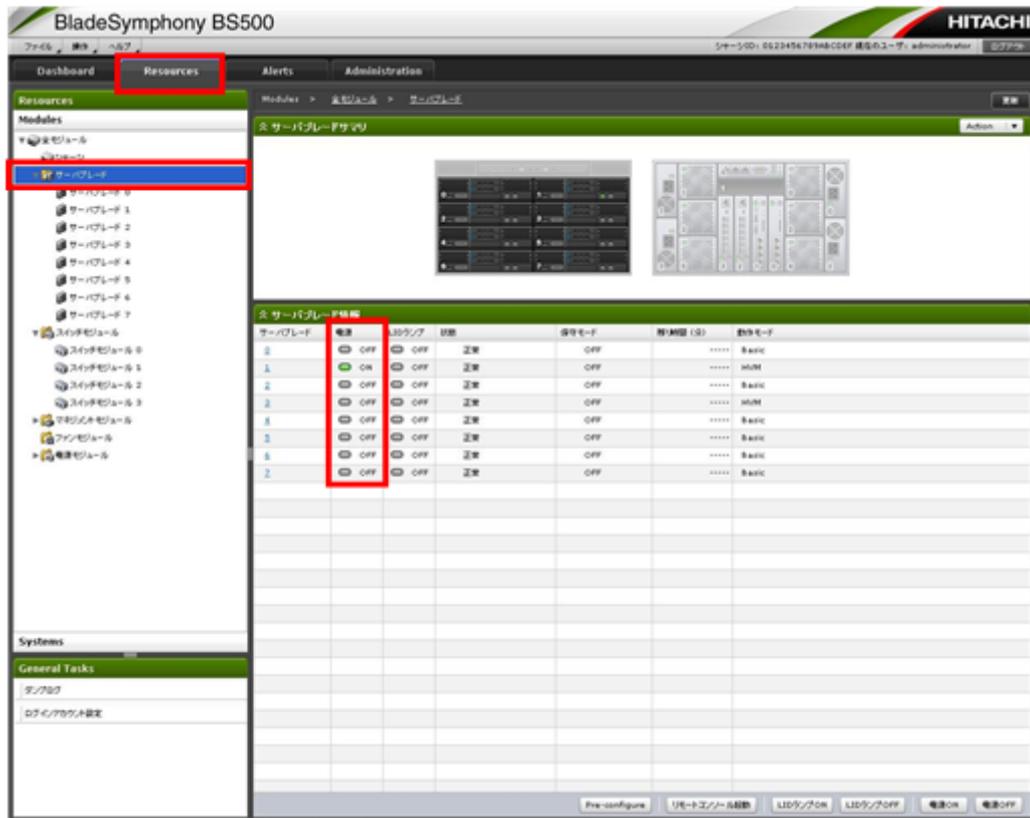


5. 確認画面を表示しますので、選択したサーバブレードが表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



6. 選択したサーバブレードの電源が入り、OS が起動します。

7. 確認のため、メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーからサーバブレードを選択してください。以下の画面を表示しますので、選択したサーバブレードの[電源]欄が[ON]と表示されていることを確認します。



参考 動作モードが HVM となっていた場合は、[設定]タブより[HVM 設定表示]ボタンをクリックし、「HVM の初期設定」の手順を参考に動作モードを Basic に設定してください。

2.2 停止方法

ここでは、サーバブレードの停止方法について説明します。OS が正常に稼働しているときは、「サーバブレードのシャットダウン」を実行してください。

2.2.1 サーバブレードのシャットダウン

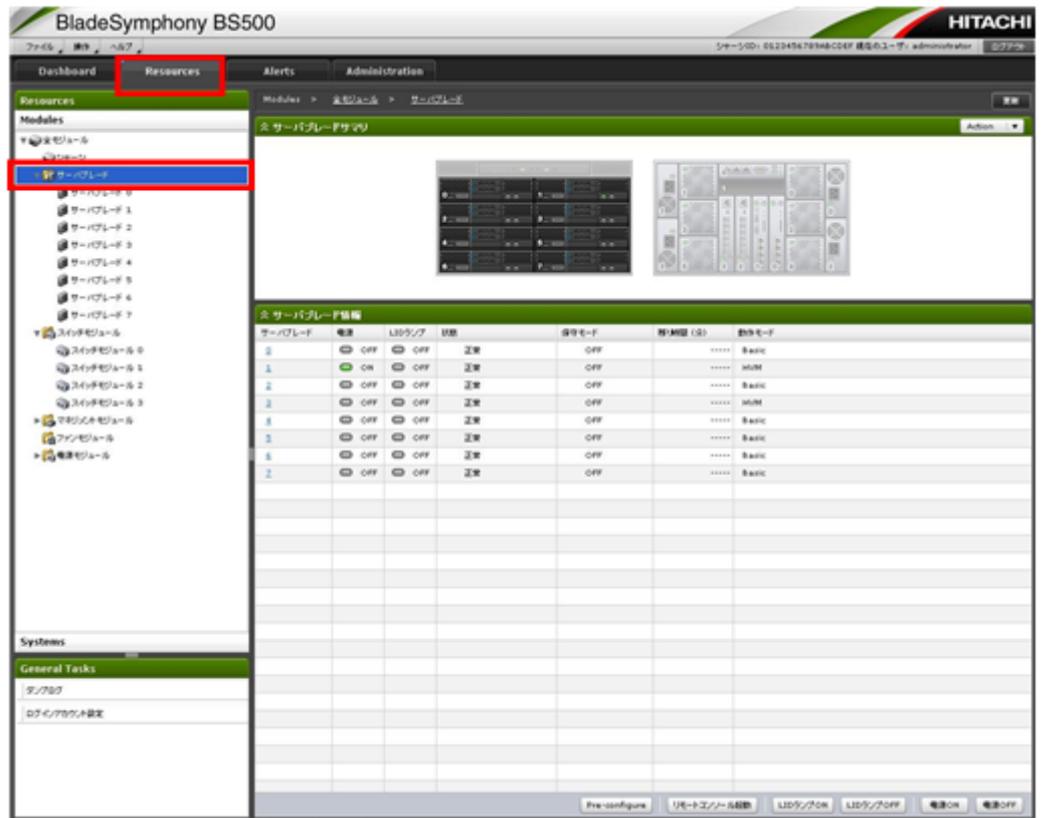
1. Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、Web ブラウザに[https://管理モジュールの IP アドレス/]を入力します。BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、BS500 Web コンソール管理ツールを起動して、管理モジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力します。

項目	工場出荷時の初期値
管理モジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443

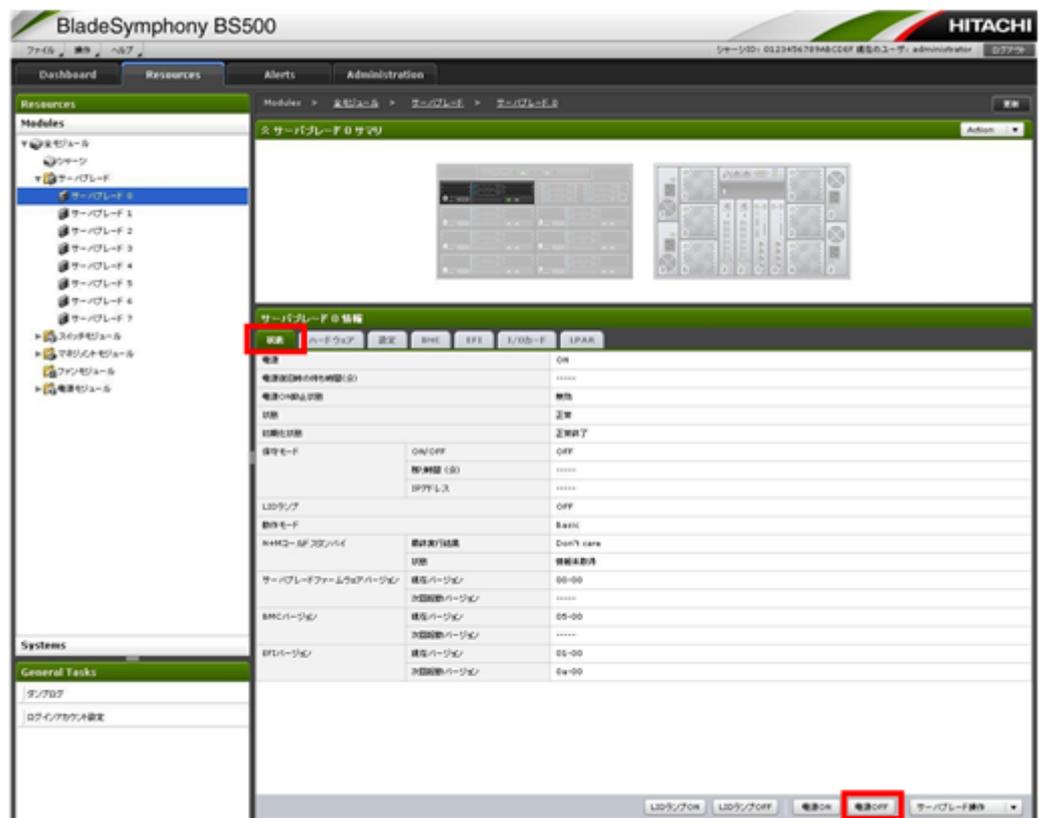
2. 管理モジュールの Web コンソールに Login します。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

- メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーから、サーバブレードを選択します。



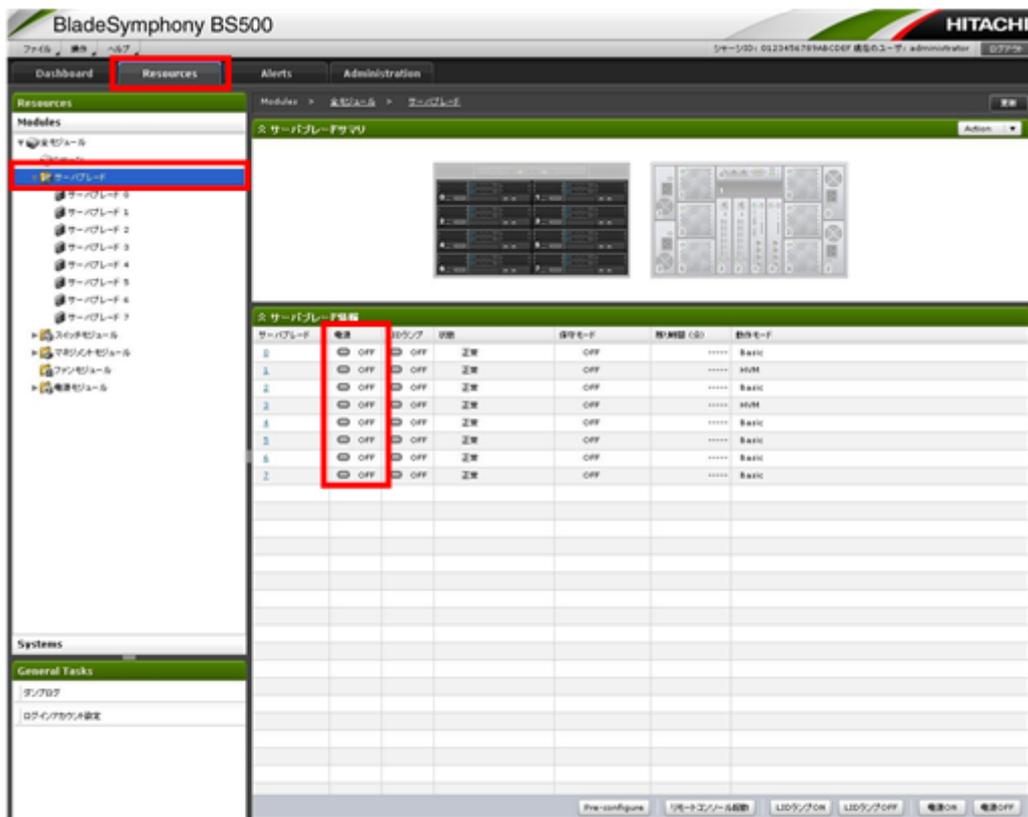
- シャットダウンするサーバブレードを選択し、[状態]タブの[電源 OFF]ボタンをクリックします。



- 確認画面を表示しますので、選択したサーバブレードが表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



- 選択したサーバブレードがシャットダウンします。
- 確認のため、メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーからサーバブレードを選択してください。以下の画面を表示しますので、選択したサーバブレードの[電源]欄が[OFF]と表示されていることを確認します。



重要

- OS のバージョンによっては、サーバブレードの電源が自動的に OFF しない場合があります。また、OS が正常に稼働していないときには、サーバブレードの電源が自動的に OFF しない場合があります。このような場合は、「サーバブレードの電源 OFF」を実施してください。

2.2.2 サーバブレードの電源 OFF

- Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、Web ブラウザに[https://マネジメントモジュールの IP アドレス/]を入力します。BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、

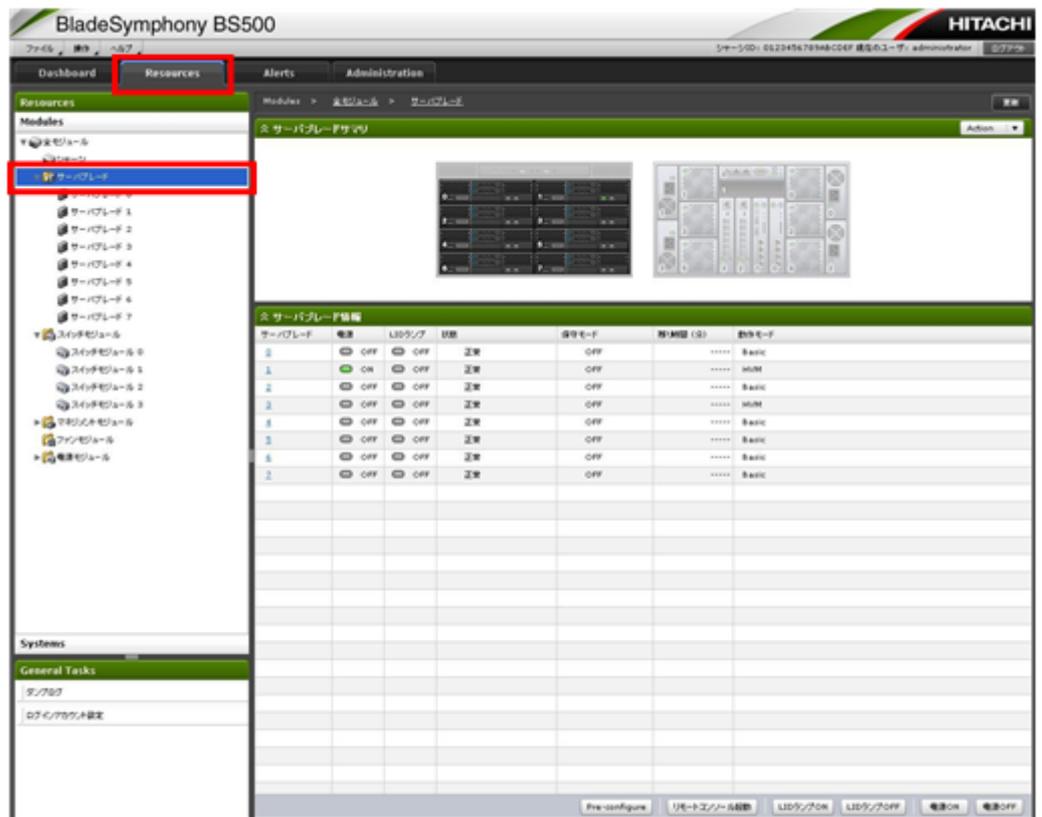
BS500 Web コンソール管理ツールを起動して、マネジメントモジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力します。

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443

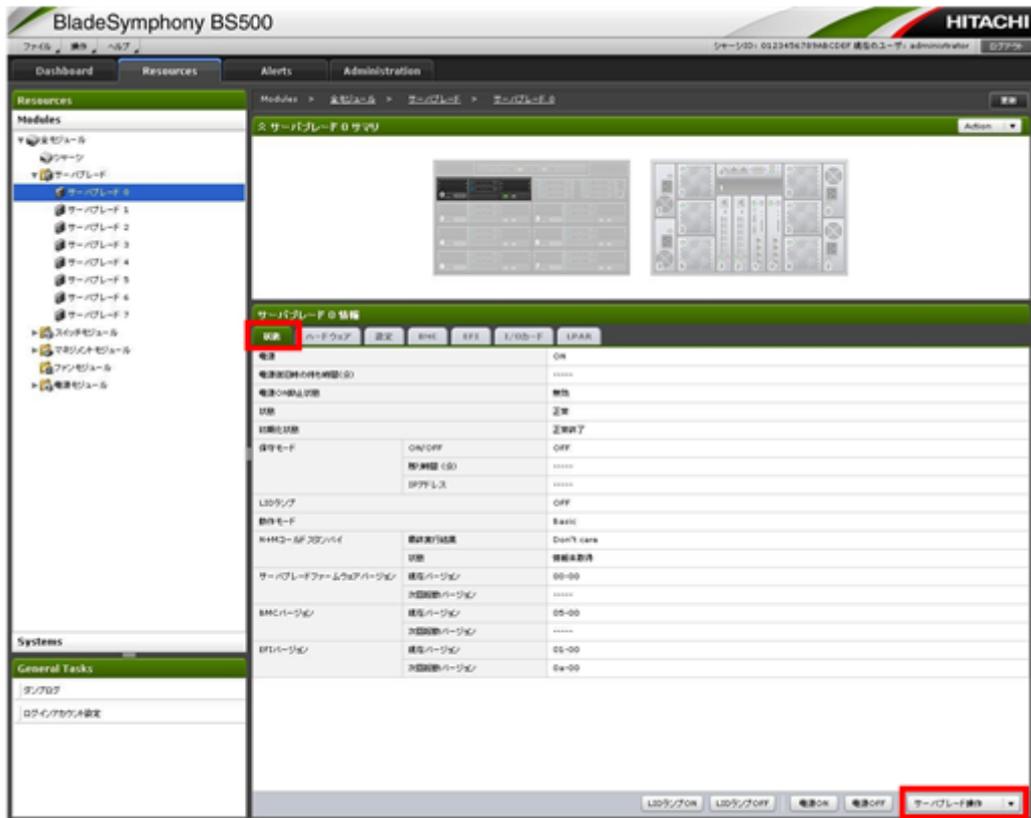
2. マネジメントモジュールの Web コンソールに Login します。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

3. メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーから、サーバブレードを選択します。



- 電源 OFF するサーバブレードを選択し、[サーバブレード操作]の[強制電源 OFF]をクリックします。

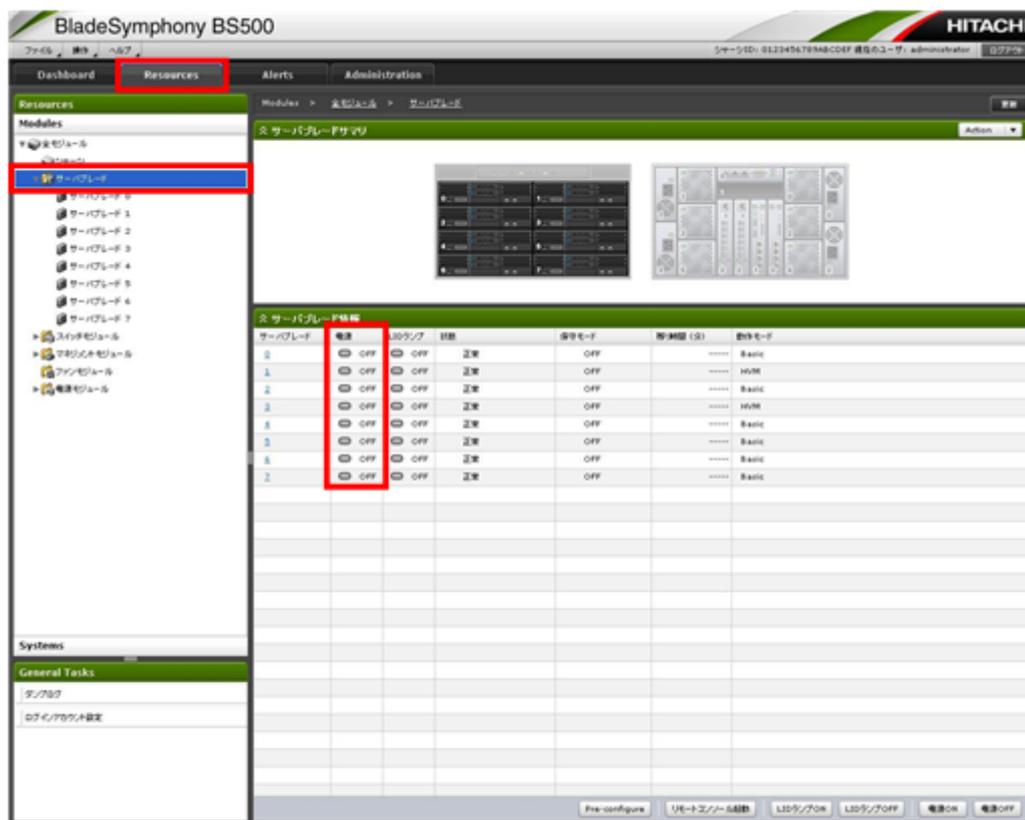


- 確認画面を表示しますので、選択したサーバブレードが表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



- 選択したサーバブレードの電源が OFF します。

7. 確認のため、メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーからサーバブレードを選択してください。以下の画面を表示しますので、選択したサーバブレードの[電源]欄が[OFF]と表示されていることを確認します。



重要

- OS が正常に動作しているときは、サーバブレードの電源ボタンを押したり、リモートコンソールの「Power Off System」をクリックしないでください。OS が起動しなくなったり、データが破壊される場合があります。
- OS が正常に動作していない場合、サーバブレードのシャットダウンや電源断ができないことがあります。そのときには、サーバブレードの電源ボタンを 4 秒以上^(※1)押ししてください。サーバブレードの電源が切れます。

※1: POWER LED が点灯から点滅になった時点でボタンを離してください。6 秒以上電源ボタンを長押しした場合、強制終了した後に再度電源オンされることがあります。この場合は、HDD アクセスランプが点灯していないことを確認した後、電源ボタンを 4 秒以上長押ししてください。

サーバブレードの起動・停止（HVM モード）

この章では、Web コンソールを用いた HVM モードでのサーバブレードの起動・停止方法について説明します。バージョンにより画面の表示内容が異なる場合があります。

- [3.1 起動方法](#)
- [3.2 停止方法](#)

3.1 起動方法

システムコンソールの設定、マネジメントモジュールの設定、スイッチモジュールの設定は、『スタートアップガイド』を参照して事前に設定しておく必要があります。

本マニュアルでは、サーバブレードの設定以降について説明します。

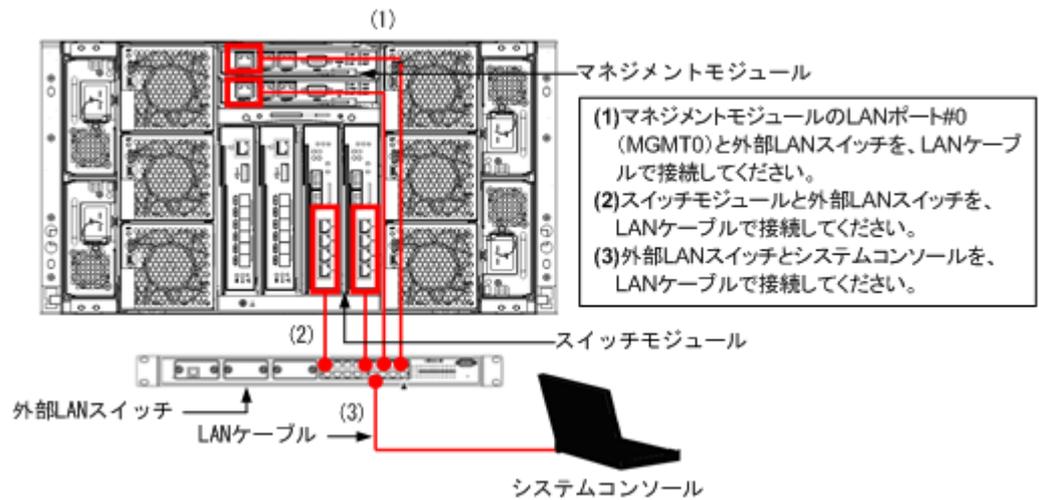
項目		設定対象			使用するコンソール	参照マニュアル
		マネジメントモジュール	スイッチモジュール	サーバブレード		
システムコンソールの設定	ネットワーク設定 ブラウザ設定 LAN ケーブル接続	○	—	—	—	スタートアップガイド
マネジメントモジュールの設定	初期設定	○	—	—	Web コンソール	
スイッチモジュールの設定	管理 LAN ポート設定 初期設定	—	○	—	Web コンソール	
サーバブレードの設定	サーバブレードの設定	—	—	○	Web コンソール	サーバブレードセットアップガイド
HVM の起動	システム装置へのケーブル接続	○	○	—	—	
	Web コンソールへの接続	—	—	○	Web コンソール	
	EFI の設定	—	—	○	Web コンソール	
	HVM ファームウェアの選択	—	—	○	Web コンソール	
	HVM の初期設定	—	—	○	Web コンソール	
	HVM の起動	—	—	○	Web コンソール	
LPAR の作成	LPAR の作成	—	—	○	Web コンソール	
	ブートオーダーの設定	—	—	○	Web コンソール	
	構成情報の保存	—	—	○	Web コンソール	
LPAR の起動	LPAR の起動	—	—	○	Web コンソール	

3.1.1 サーバブレードの設定

サーバブレードの設定については、「サーバブレードの設定」を参照してください。

3.1.2 システム装置へのケーブル接続

HVM を起動するためには、システム装置へのケーブル接続を以下のようにする必要があります。ネットワークの接続例を以下に示します。



図の説明

- (1)マネジメントモジュールの LAN ポート#0 (MGMT0) と外部 LAN スイッチを、LAN ケーブルで接続してください。
- (2)スイッチモジュールと外部 LAN スイッチを、LAN ケーブルで接続してください。
- (3)外部 LAN スイッチとシステムコンソールを、LAN ケーブルで接続してください。

LAN パススルーモジュールを使用する場合、LAN パススルーモジュールと外部 LAN スイッチのケーブル接続を以下のようにする必要があります。

【サーバブレード : BS520A, 拡張カード 1 : Emulex 10Gb 4 ポートの場合】

サーバブレード	LAN パススルーモジュール	
ブレード 0	スロット 0	ポート 1
	スロット 1	ポート 1
ブレード 1	スロット 0	ポート 3
	スロット 1	ポート 3
ブレード 2	スロット 0	ポート 5
	スロット 1	ポート 5
ブレード 3	スロット 0	ポート 7
	スロット 1	ポート 7
ブレード 4	スロット 0	ポート 9
	スロット 1	ポート 9
ブレード 5	スロット 0	ポート 11
	スロット 1	ポート 11
ブレード 6	スロット 0	ポート 13
	スロット 1	ポート 13
ブレード 7	スロット 0	ポート 15
	スロット 1	ポート 15

【上記以外の場合】

サーバブレード	LAN パススルーモジュール	
ブレード 0	スロット 0	ポート 0
	スロット 1	ポート 0
ブレード 1	スロット 0	ポート 2
	スロット 1	ポート 2
ブレード 2	スロット 0	ポート 4
	スロット 1	ポート 4
ブレード 3	スロット 0	ポート 6
	スロット 1	ポート 6
ブレード 4	スロット 0	ポート 8
	スロット 1	ポート 8
ブレード 5	スロット 0	ポート 10
	スロット 1	ポート 10
ブレード 6	スロット 0	ポート 12
	スロット 1	ポート 12
ブレード 7	スロット 0	ポート 14
	スロット 1	ポート 14

3.1.3 Web コンソールへの接続

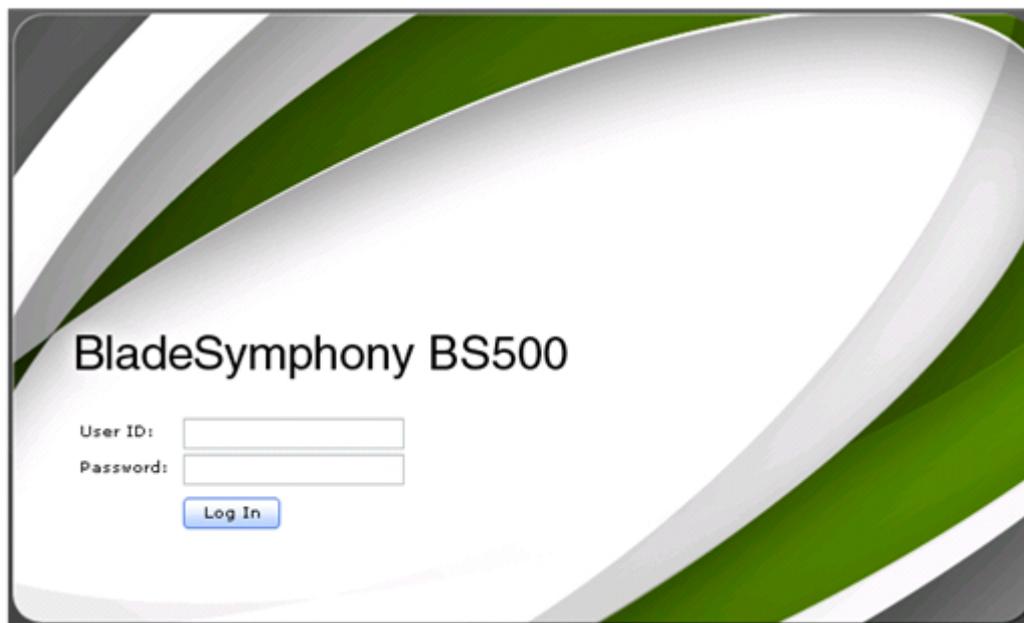
1. Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、Web ブラウザに[https://管理モジュールの IP アドレス/]を入力します。BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、BS500 Web コンソール管理ツールを起動して、管理モジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力します。

項目	工場出荷時の初期値
管理モジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443

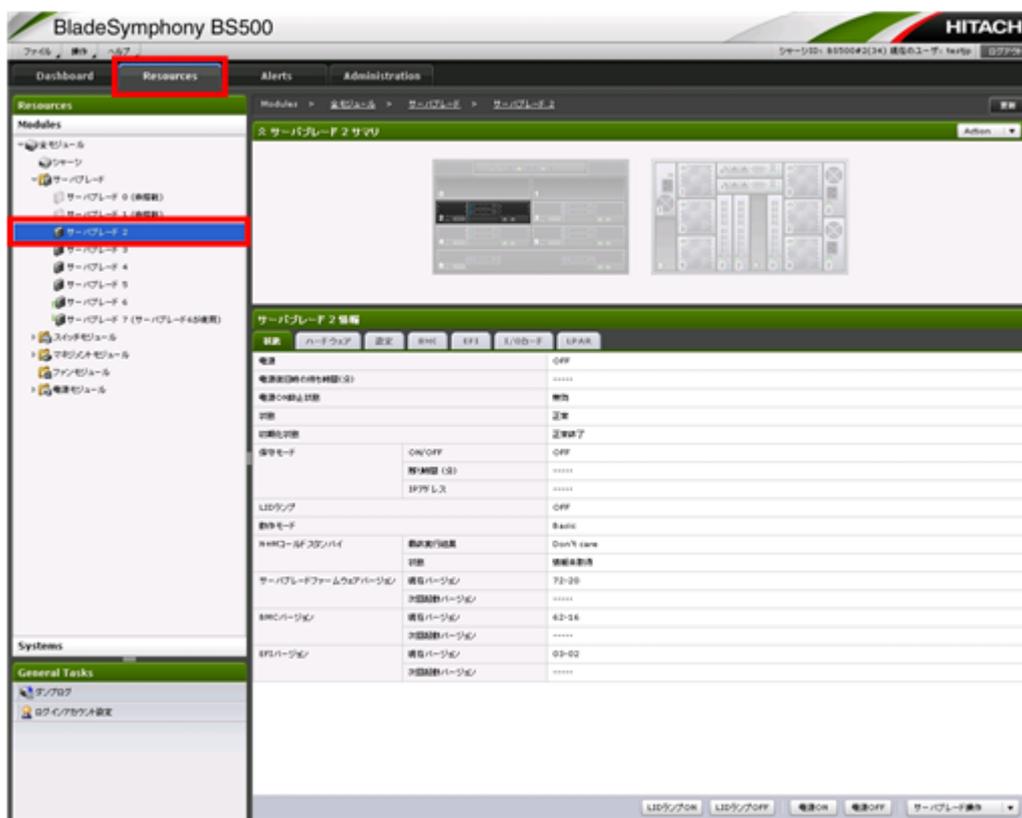
2. 管理モジュールの Web コンソールに Login します。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator

項目	工場出荷時の初期値
パスワード	password



3. メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーから、サーバブレードを選択します。



3.1.4 EFI の設定

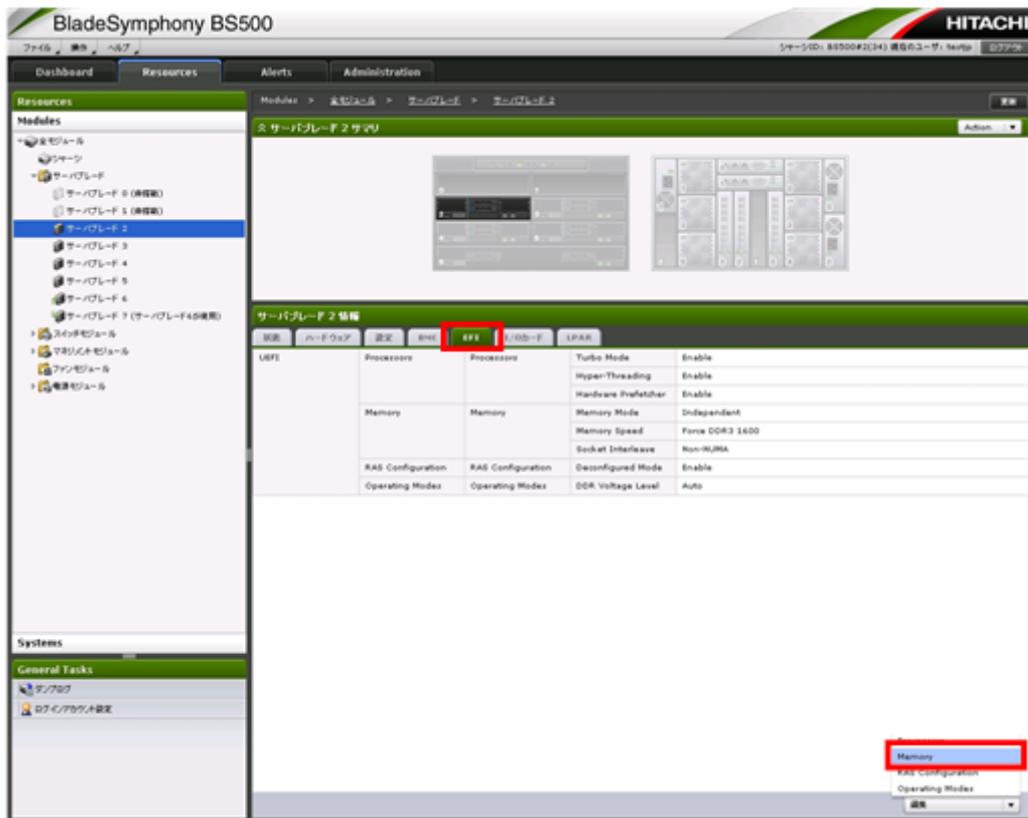
【サーバブレードモデル BS520H, BS520A のみ】

HVM モードでの EFI の設定 (推奨値) を以下に示します。その他、環境に合わせて必要な項目を設定してください。

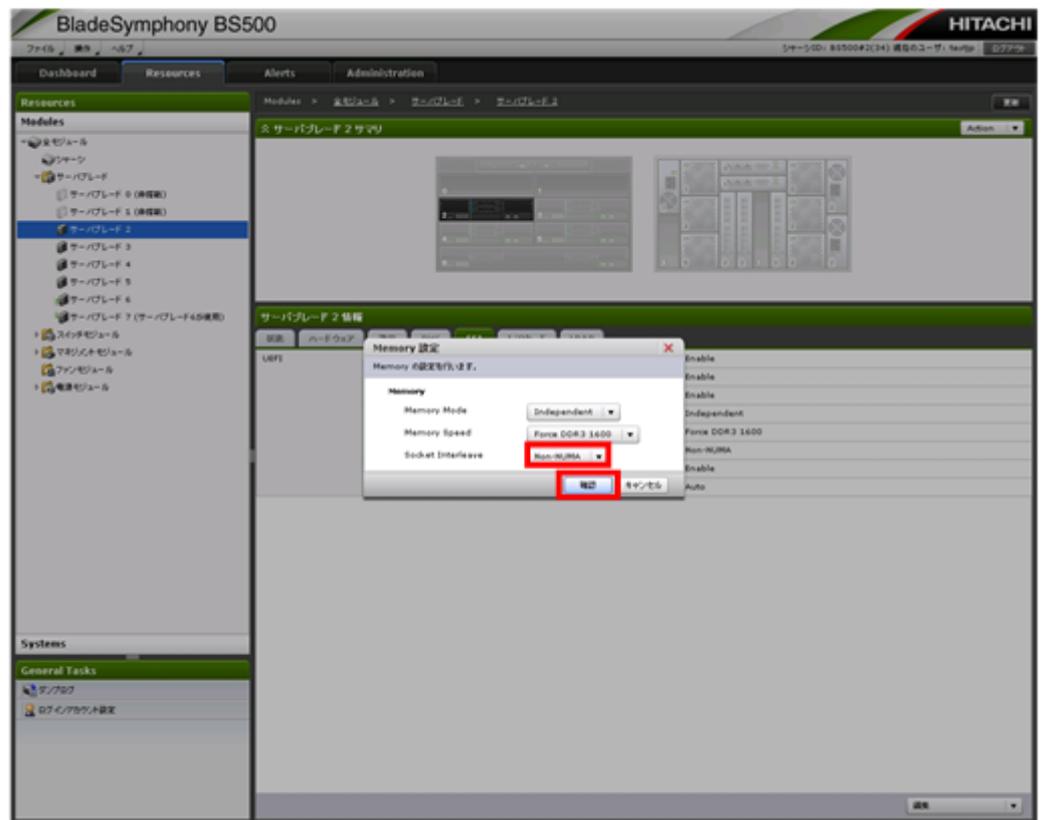
項目			推奨値	推奨値と異なる場合に発生する現象	サポートバージョン
Memory	Memory	Socket Interleave	Non-NUMA	LPAR 性能低下	~01-1X
			Non-NUMA / NUMA ※1	—	01-2X~

※1：Socket Interleave 設定を NUMA にする場合は、その特性を十分に考慮して LPAR にメモリとプロセッサを割り当てる必要があります。基本的には、Non-NUMA にすることを推奨します。

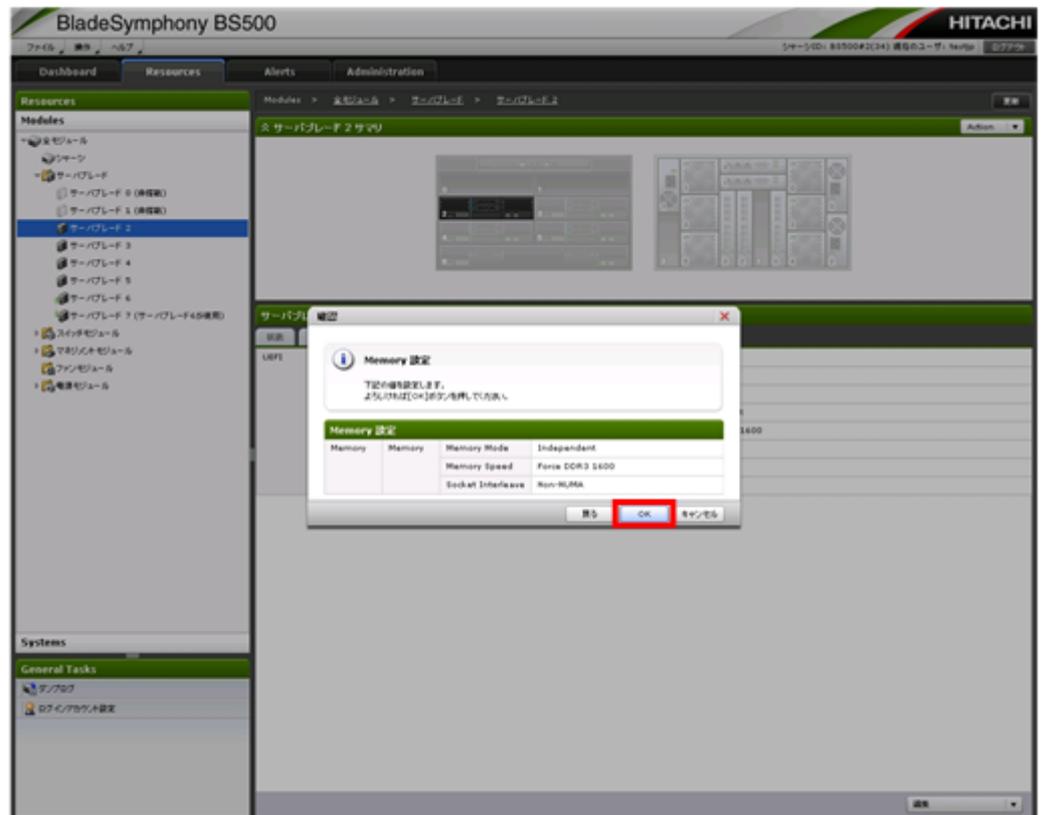
1. [EFI] タブを選択し、[編集] の [Memory] を選択します。



2. Socket Interleave で Non-NUMA または NUMA を選択し、[確認]ボタンをクリックします。



3. [OK]ボタンをクリックします。

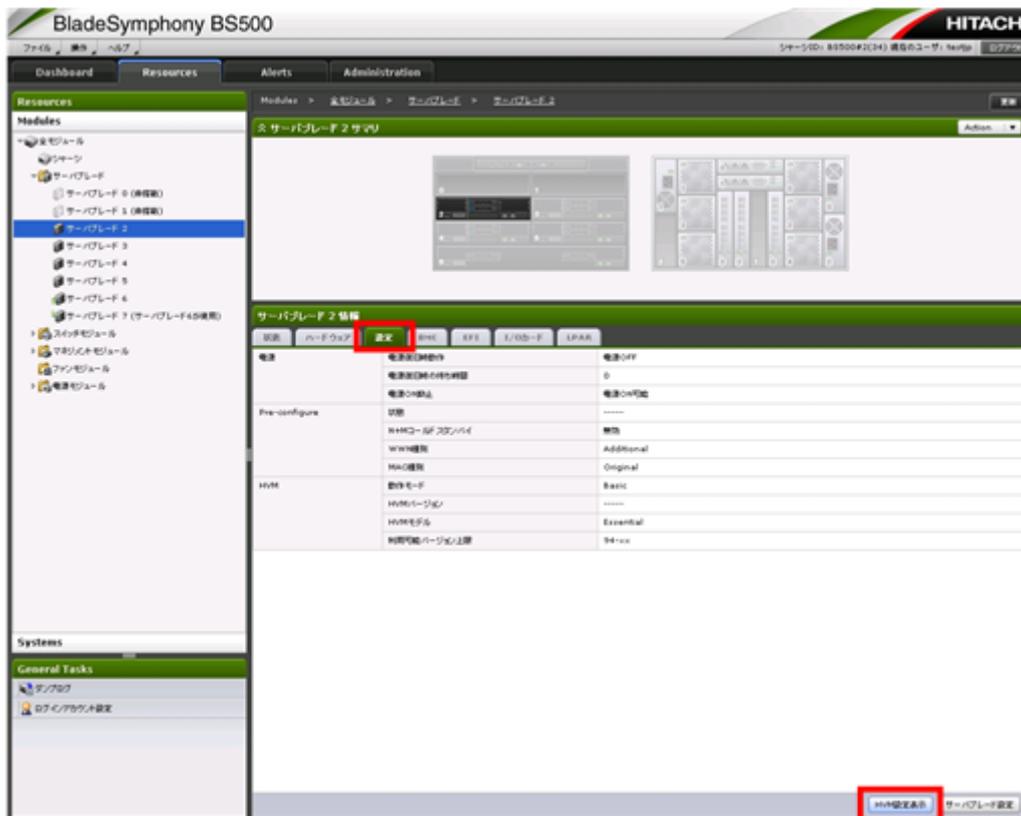


3.1.5 HVM ファームウェアの選択

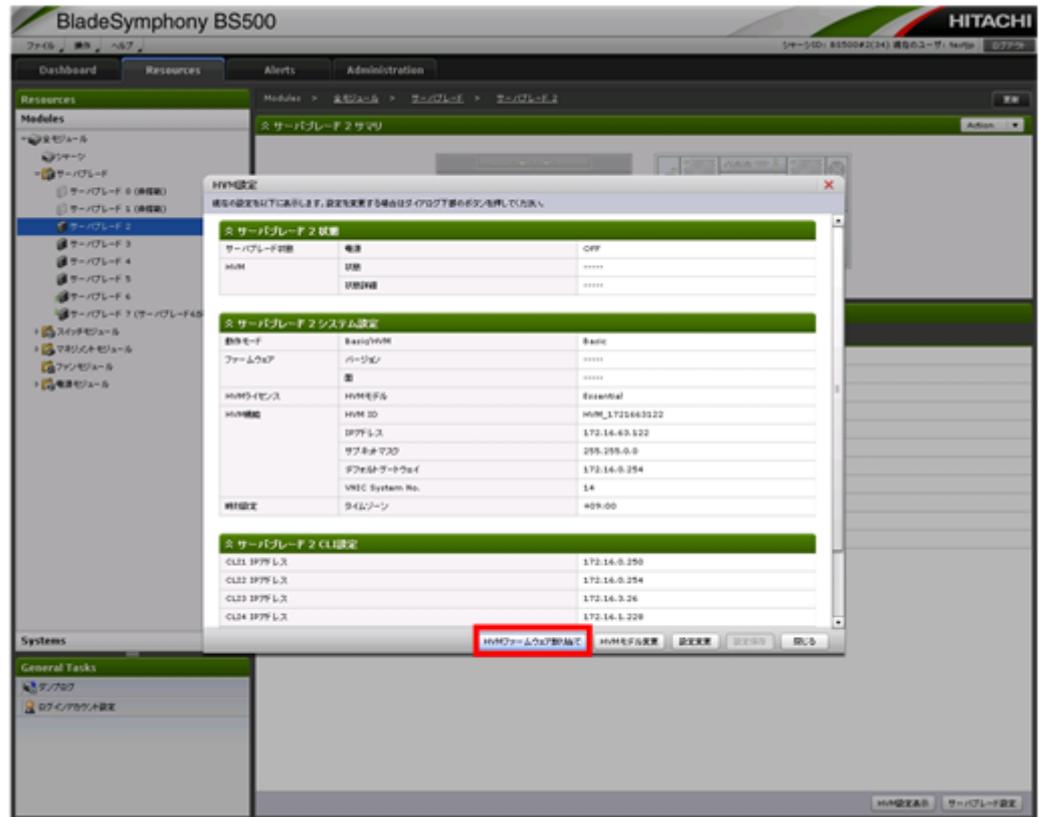
参考

- 工場出荷時の HVM ファームウェア割り当てのままです、お使いいただけます。
- マネジメントモジュールファームウェアバージョン A0240 以降では、本操作は [HVM] タブで行います。詳細については、『Web コンソールユーザーズガイド』を参照してください。

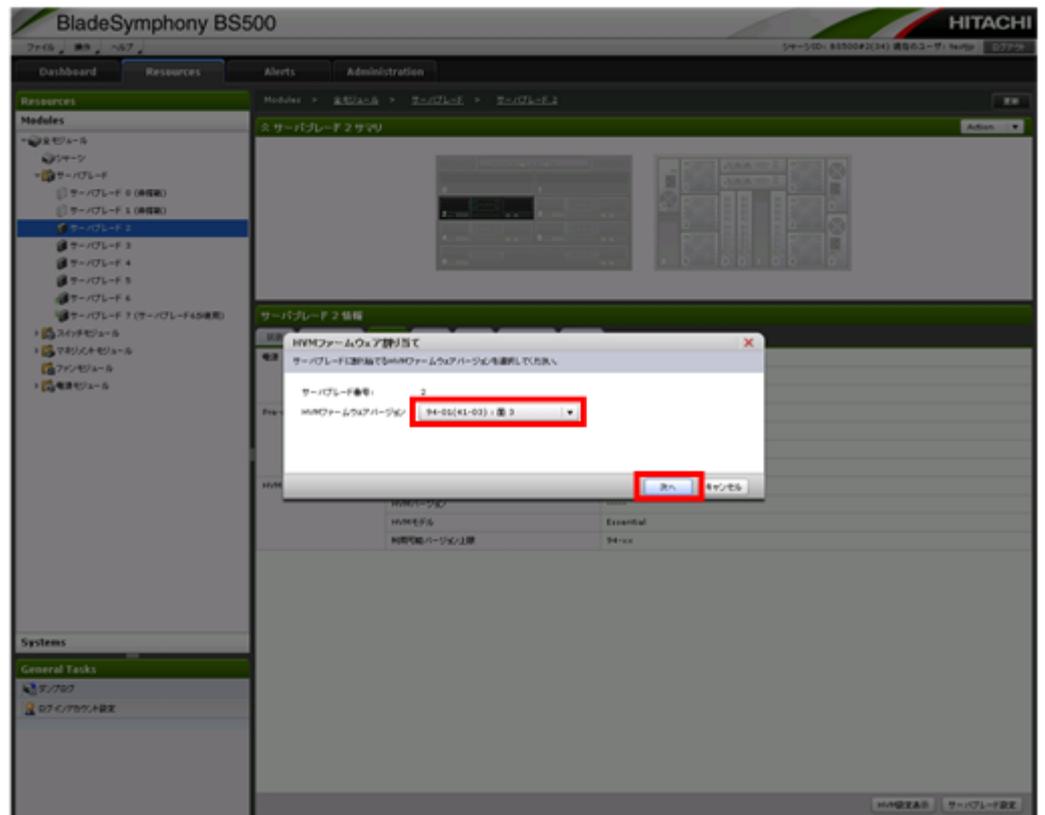
- [設定]タブを選択し、[HVM 設定表示]ボタンをクリックします。



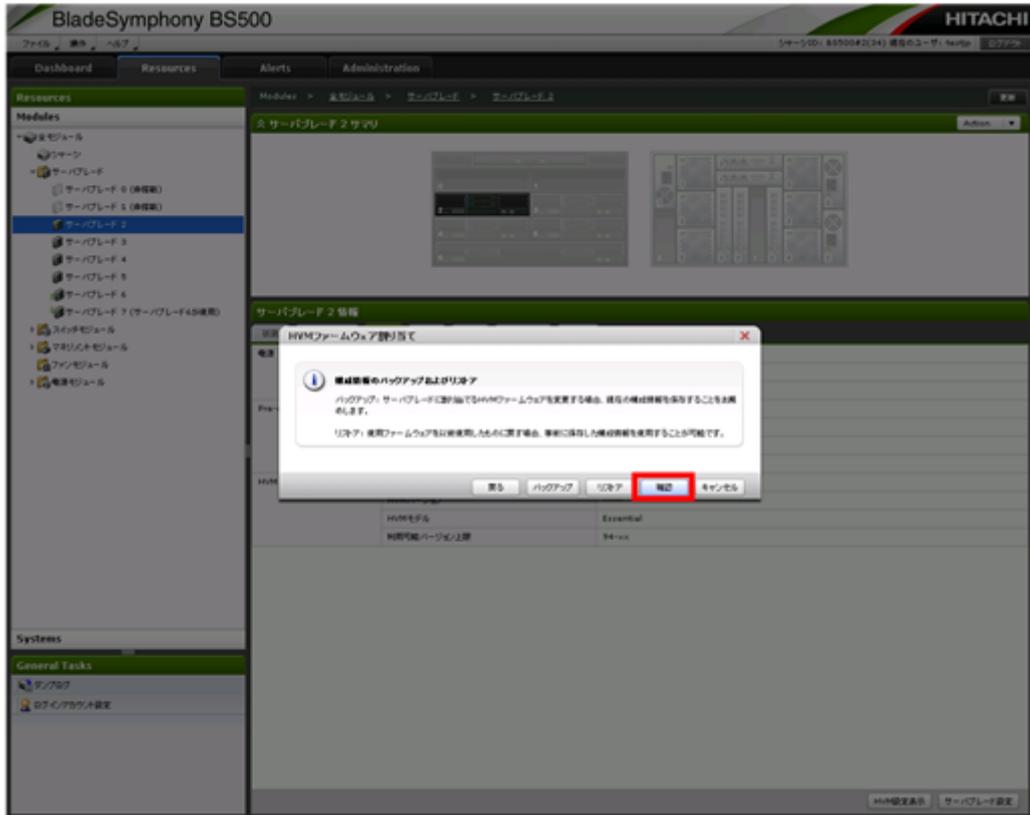
2. [HVM ファームウェア割り当て]ボタンをクリックします。



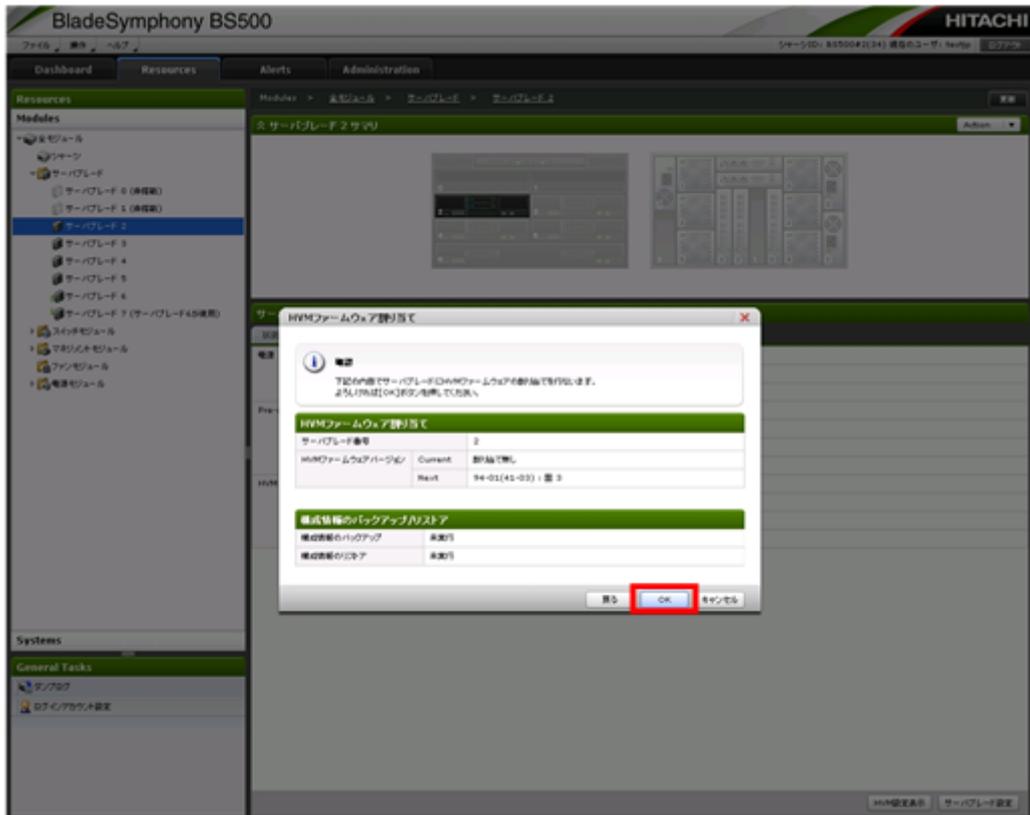
3. HVM ファームウェアを選択し, [次へ]ボタンをクリックします。



4. [確認]ボタンをクリックします。



5. [OK]ボタンをクリックします。

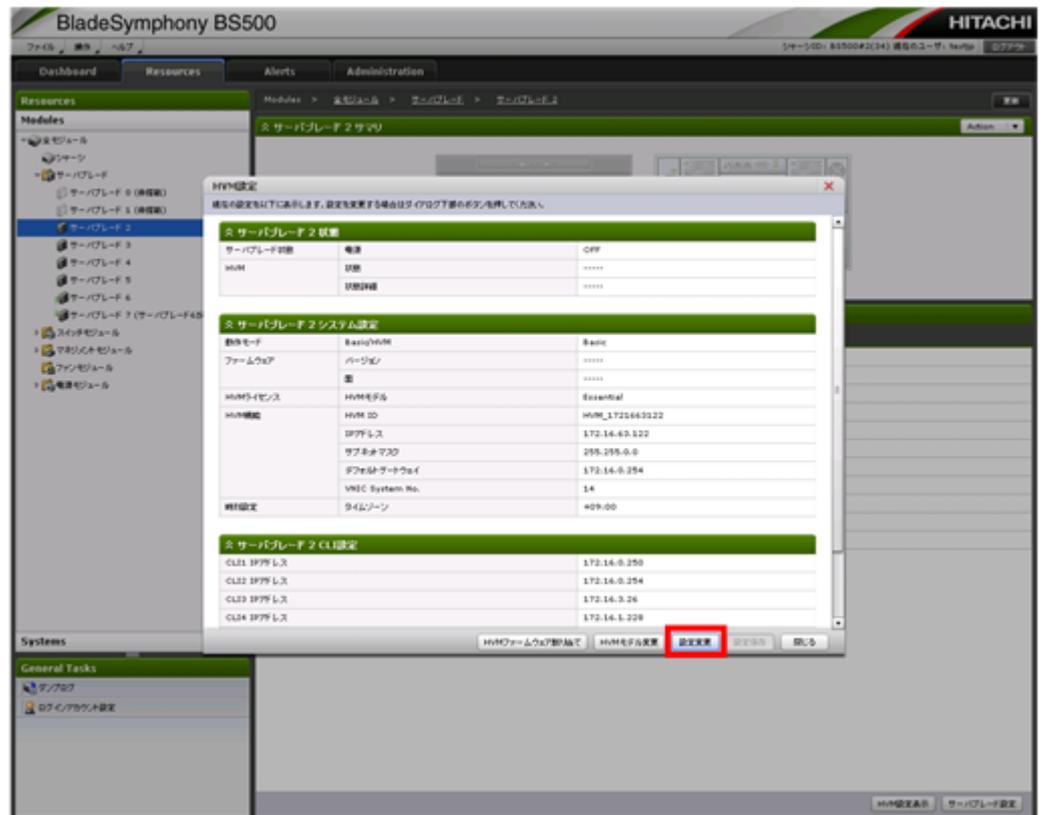


3.1.6 HVM の初期設定

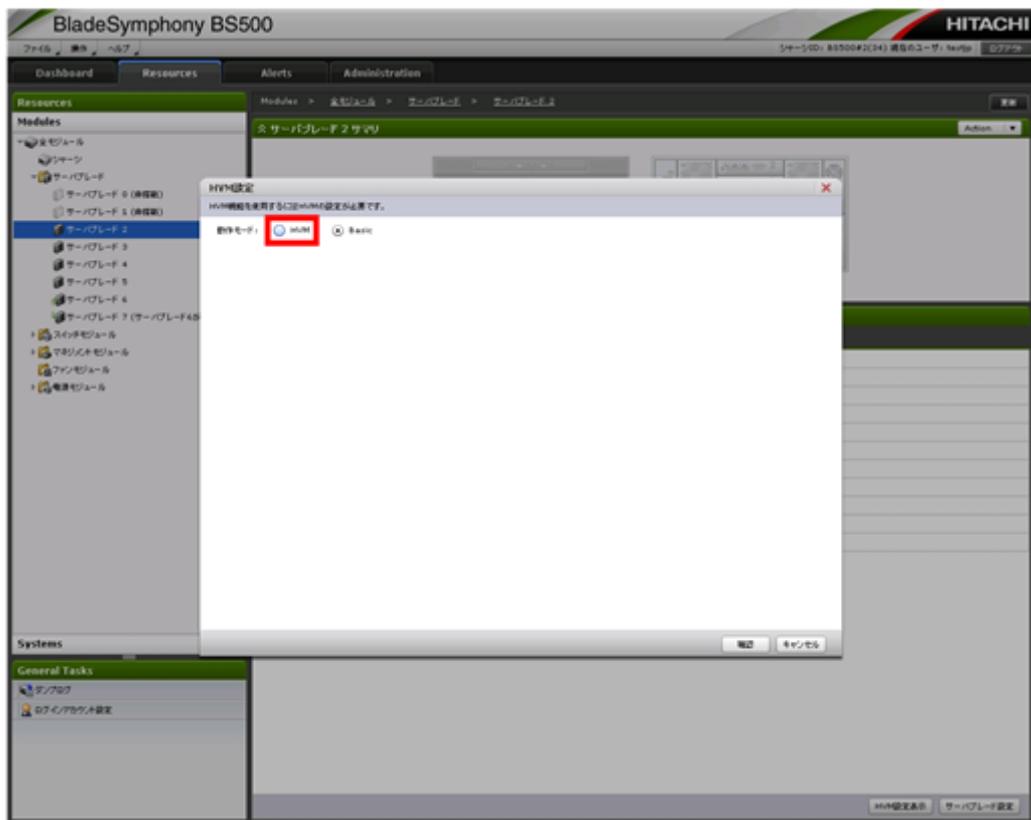
参考

- ・ マネジメントモジュールファームウェアバージョン A0240 以降では、本操作は [HVM] タブで行います。詳細については、『Web コンソールユーザーズガイド』を参照してください。

1. [設定変更]ボタンをクリックします。



2. 動作モードを[HVM]に設定します。



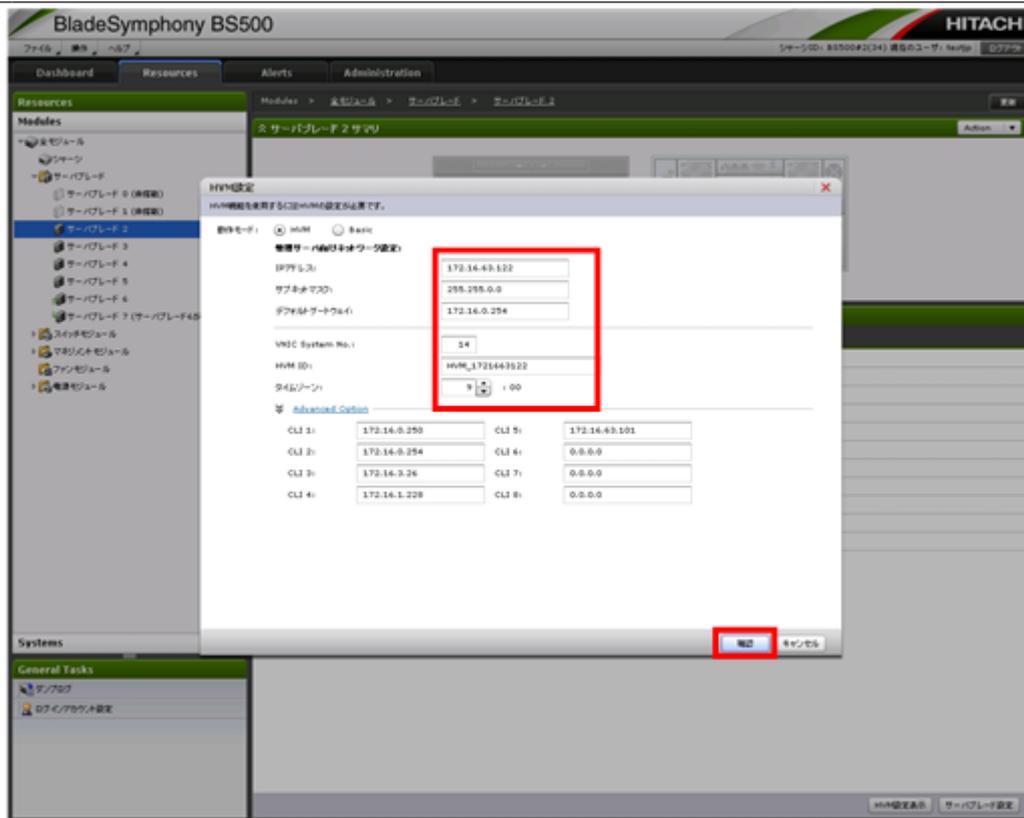
3. 以下の項目を設定し、[確認]ボタンをクリックします。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- VNIC System No.
- タイムゾーン

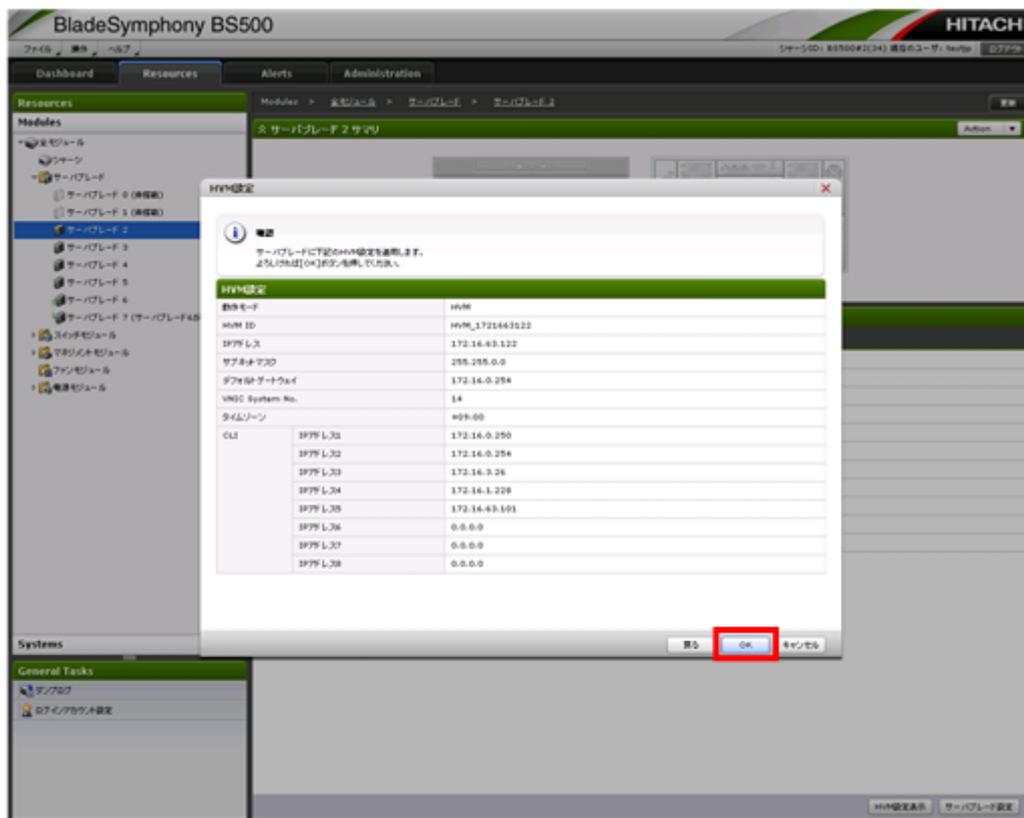
重要

- IP アドレスは、管理モジュールやサーバブレードの IP アドレスなどと重複しないように設定してください。重複して設定した場合は、Web コンソールやリモートコンソールなどに接続できなくなります。
- HVM と管理モジュールの IP アドレス、デフォルトゲートウェイは、同一ネットワークとなるように設定してください。異なるネットワークに設定した場合、HVM の起動に失敗、または HVM 起動完了後に通信障害が発生することがあります。
- デフォルトゲートウェイを使用しない場合は、「0.0.0.0」としてください。空白とした場合、HVM の起動に失敗することがあります。

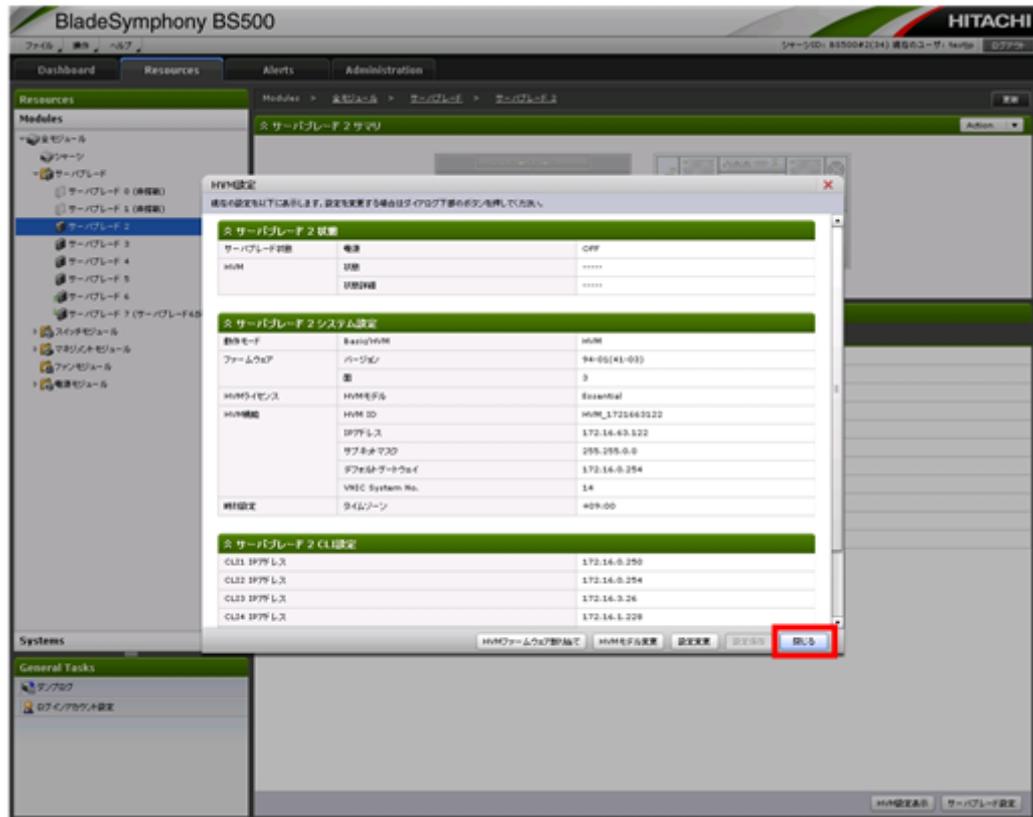
- VNIC System No.は、共有 NIC および仮想 NIC の MAC アドレスの重複を防ぐため、MAC アドレス生成に使用されます。したがって、BladeSymphony シリーズの HVM システムにてユニークな値を設定してください。



4. [OK]ボタンをクリックします。



5. [閉じる]ボタンをクリックします。



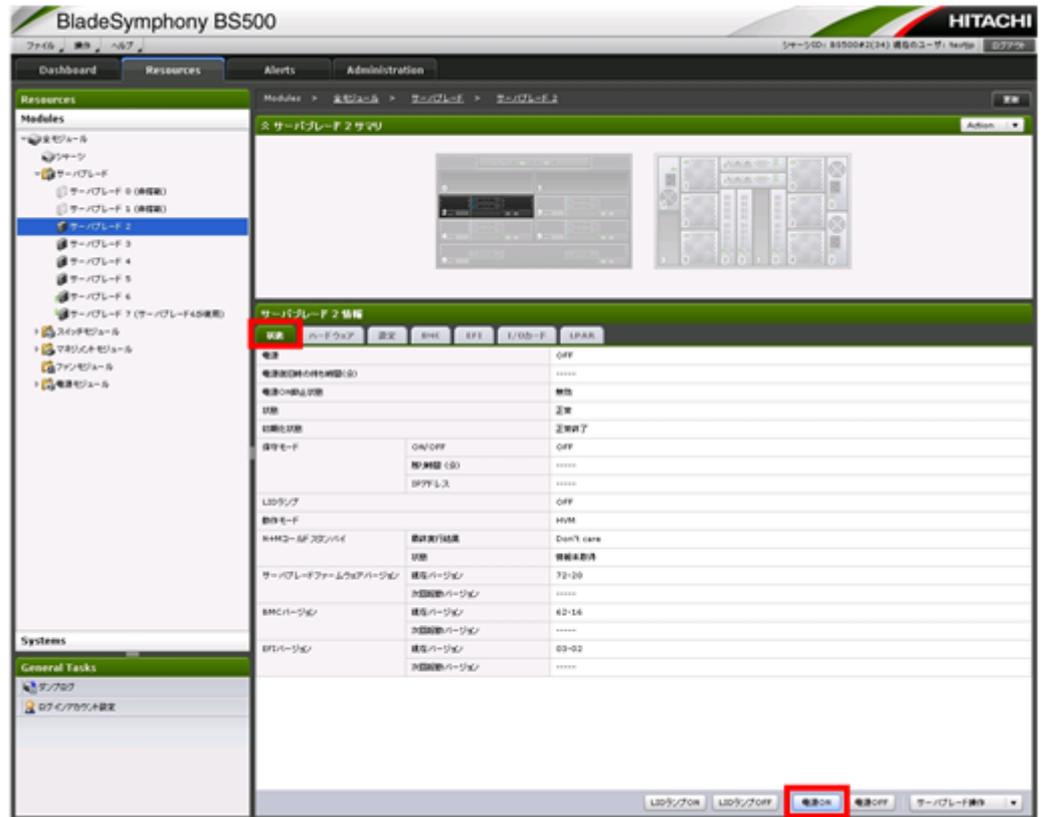
3.1.7 HVM の起動

参考

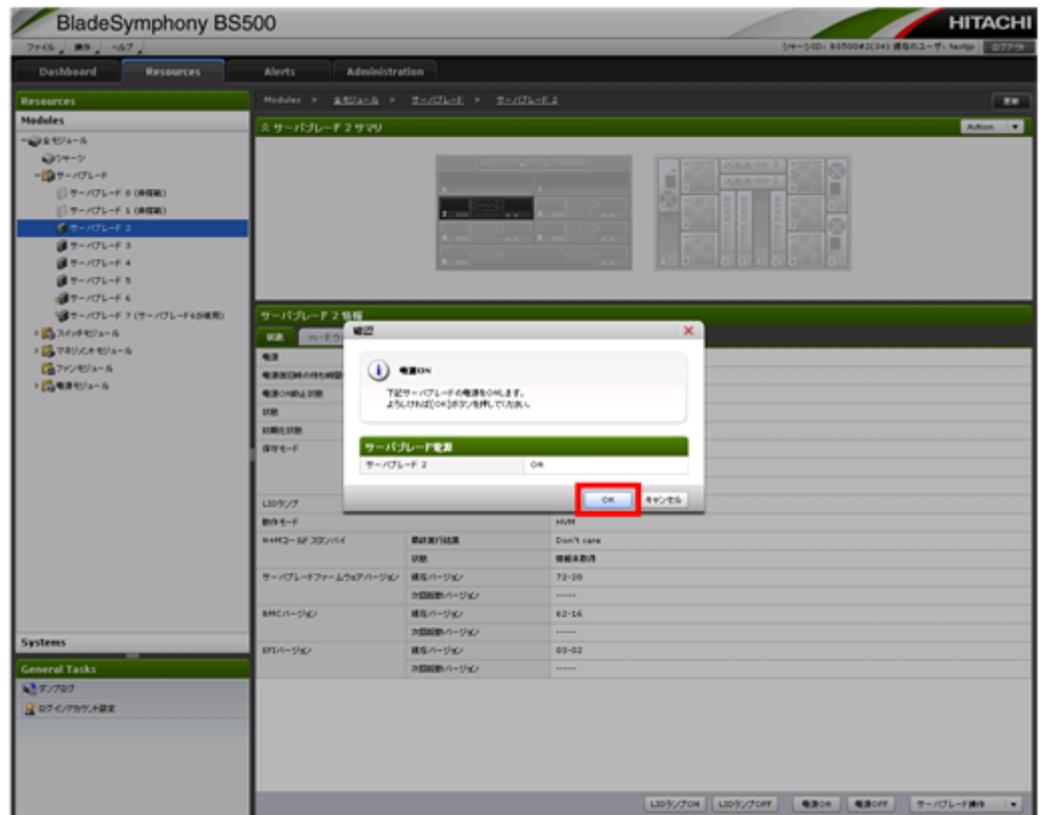
- 電源投入後、HVMの起動が完了するまでの間は、[LPAR]タブ内にHVMの起動状況が表示されます。([更新]ボタンのクリックにより内容が更新されます)

ただし、電源投入直後は、状態取得に失敗したことを意味するメッセージが表示されることがあります。本現象が発生した場合は、[更新]ボタンのクリックにより、画面の更新を行ってください。

1. [状態]タブを選択し、[電源 ON]ボタンをクリックします。



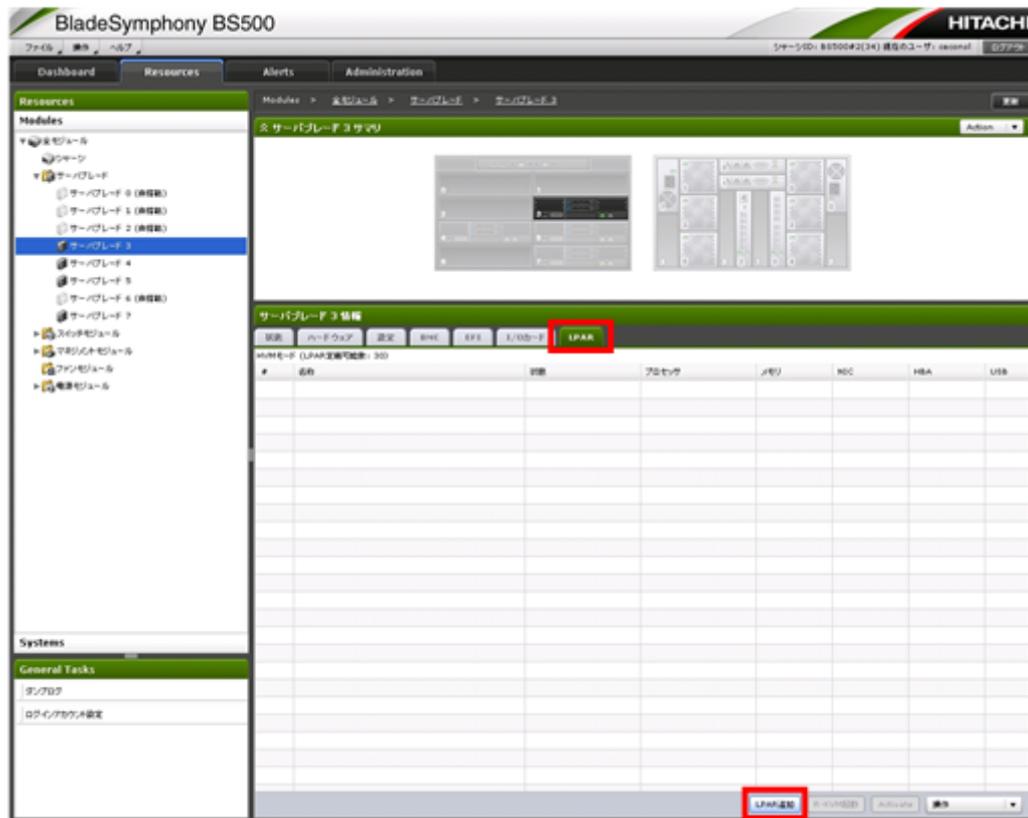
2. [OK]ボタンをクリックします。



3. 電源を投入してから HVM が起動するまで 10～15 分程度かかります。サーバブレードの構成により、起動時間は変わる場合があります。

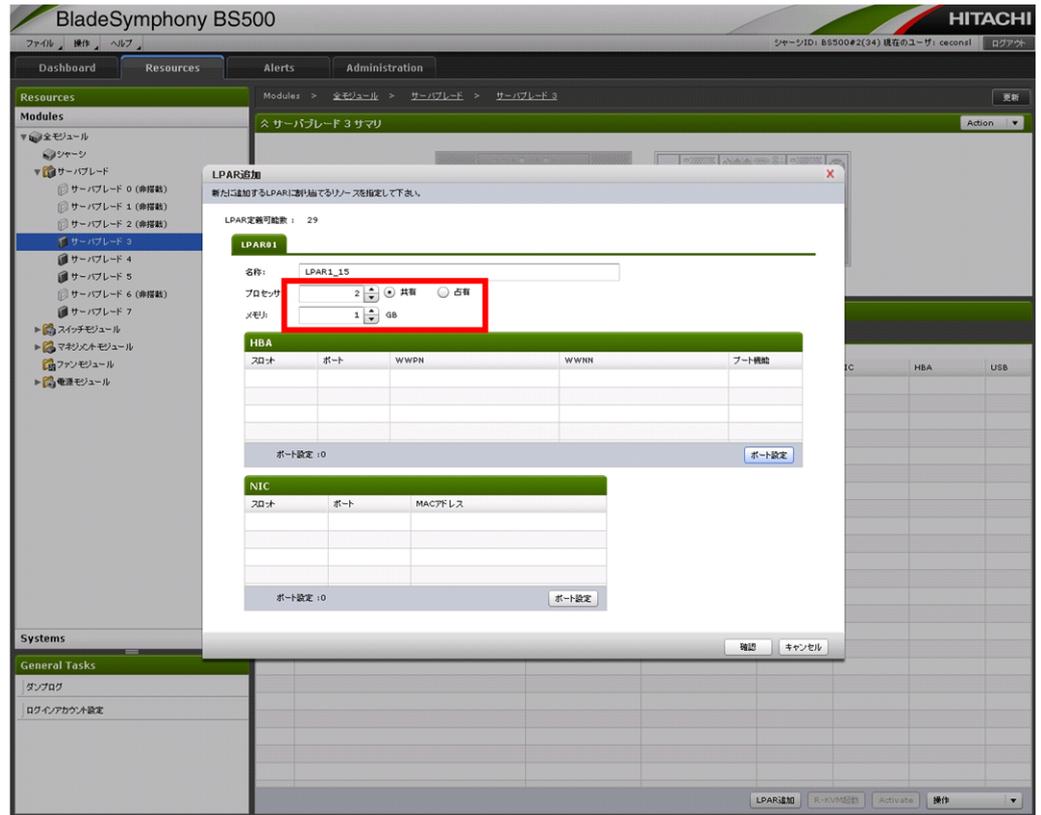
3.1.8 LPAR の作成

1. [LPAR]タブを選択し、[LPAR 追加]ボタンをクリックします。

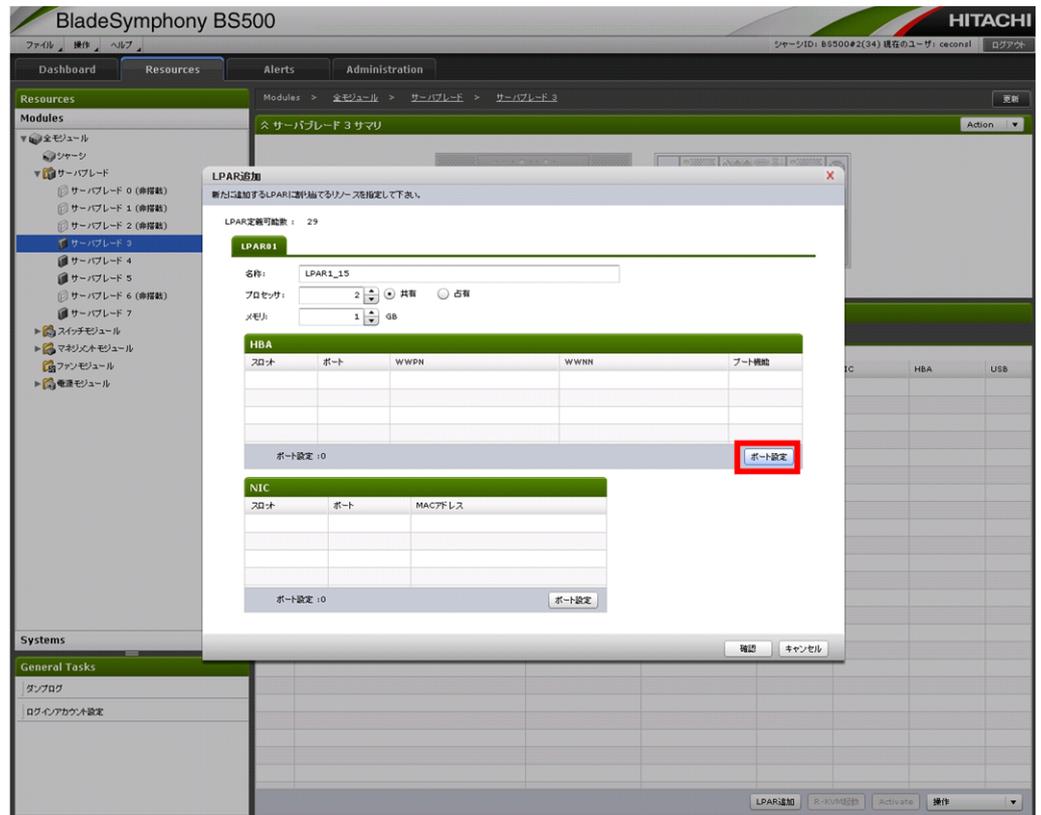


2. 以下の項目を設定します。
 - プロセッサ
 - プロセッサのスケジューリングモード

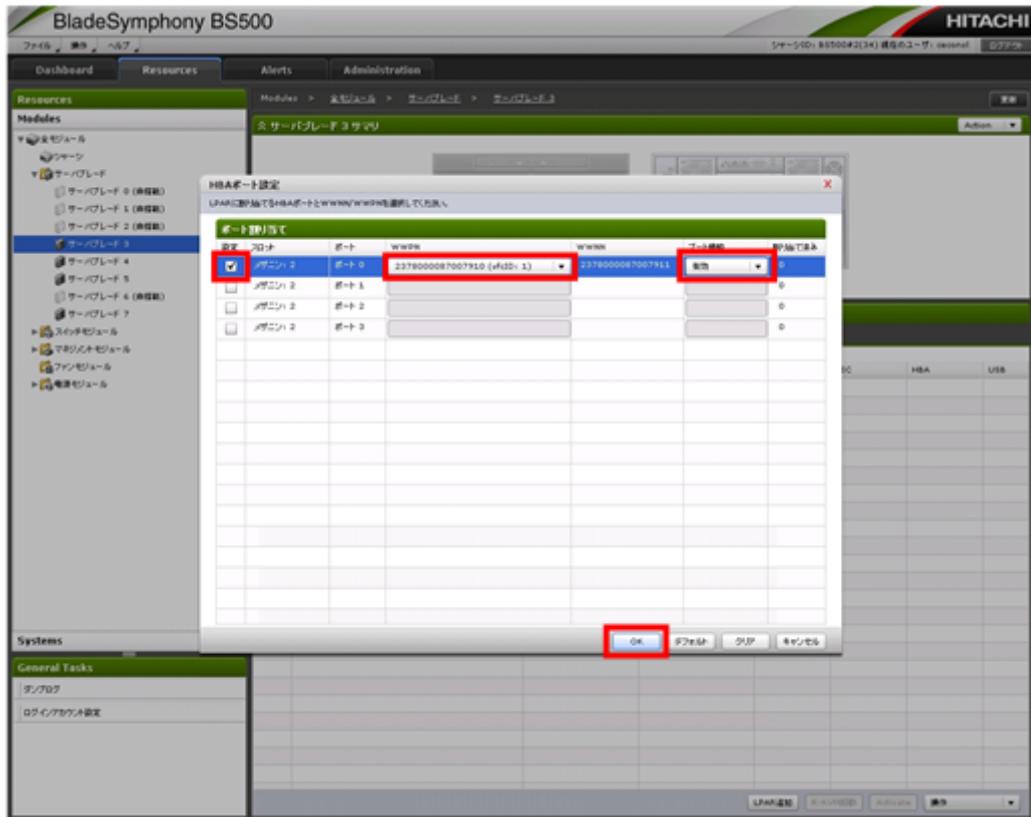
- メモリ



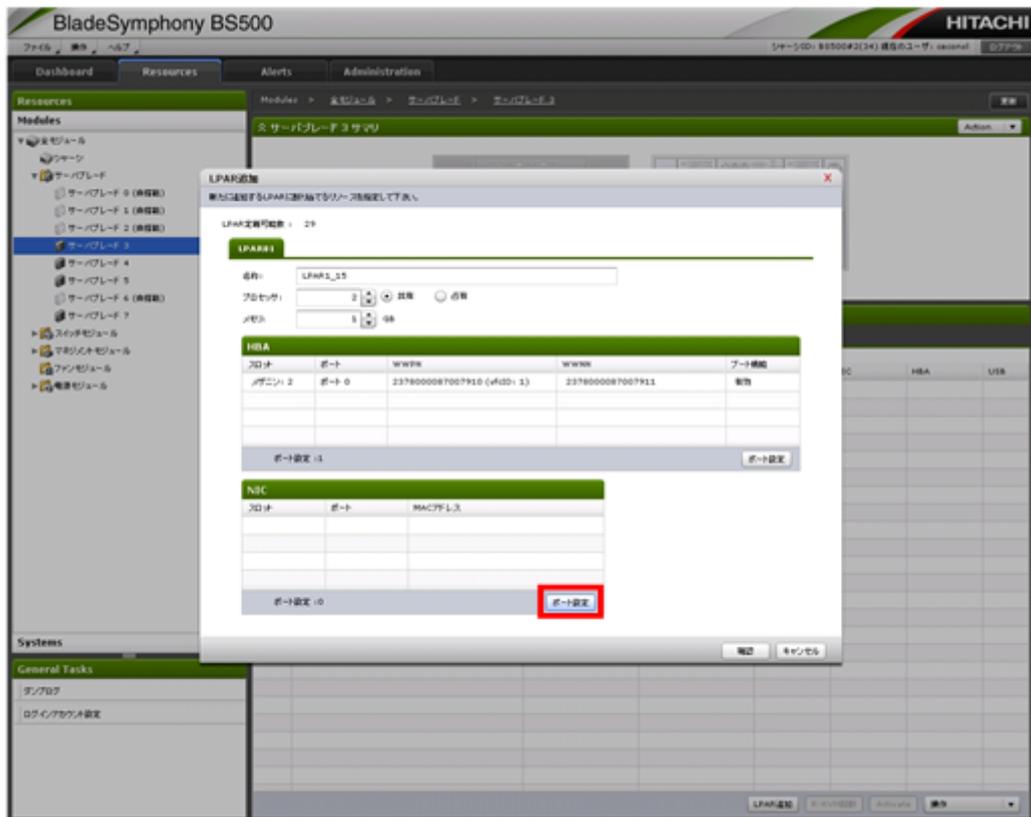
- HBA の[ポート設定]ボタンをクリックします。



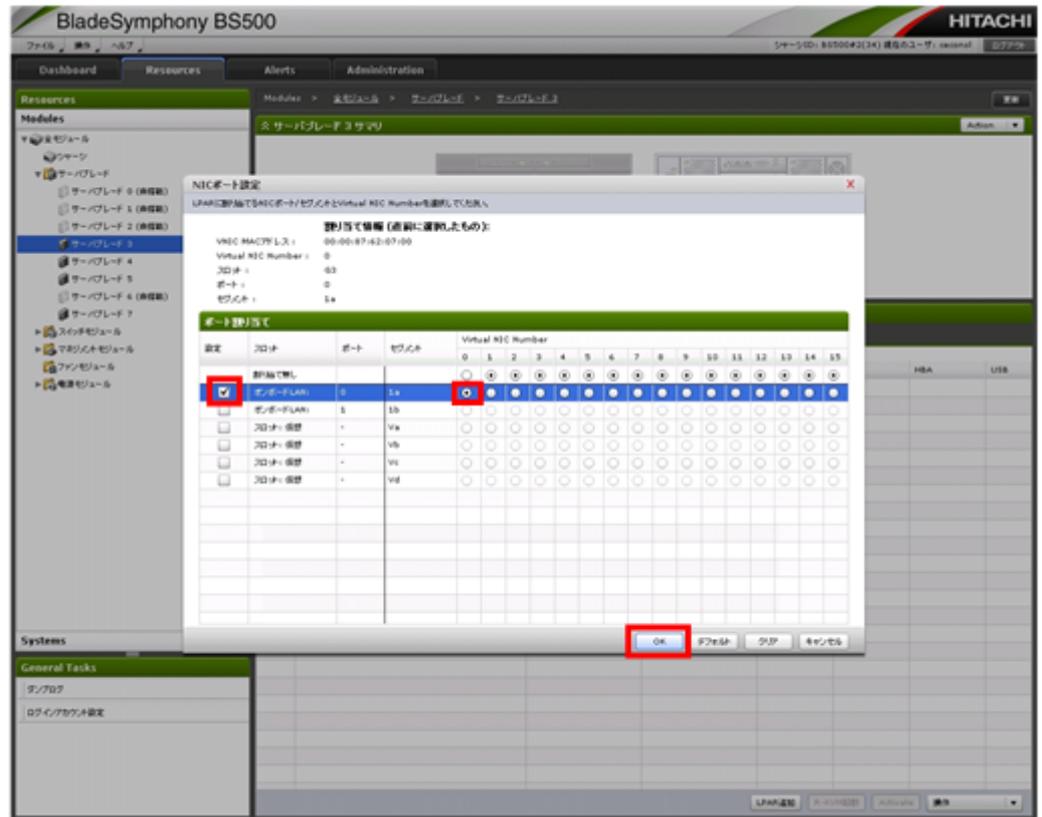
4. WWPN を選択、およびブート機能を有効に設定し、[OK]ボタンをクリックします。



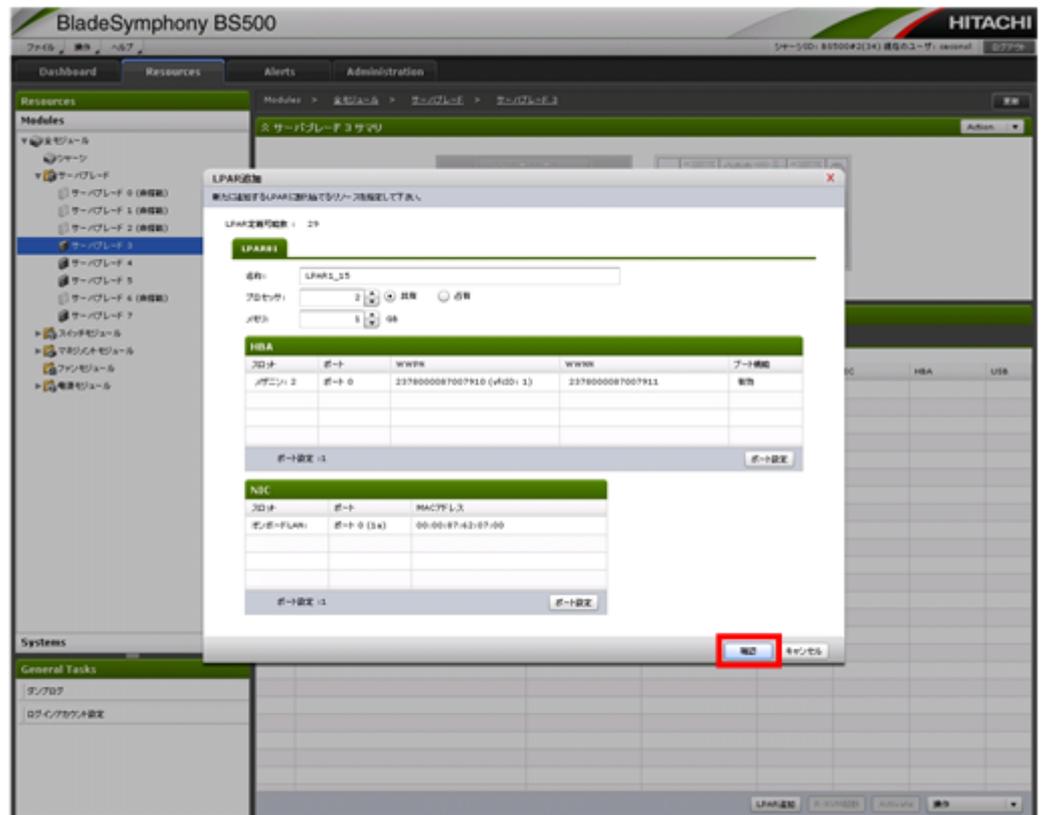
5. NIC の[ポート設定]ボタンをクリックします。



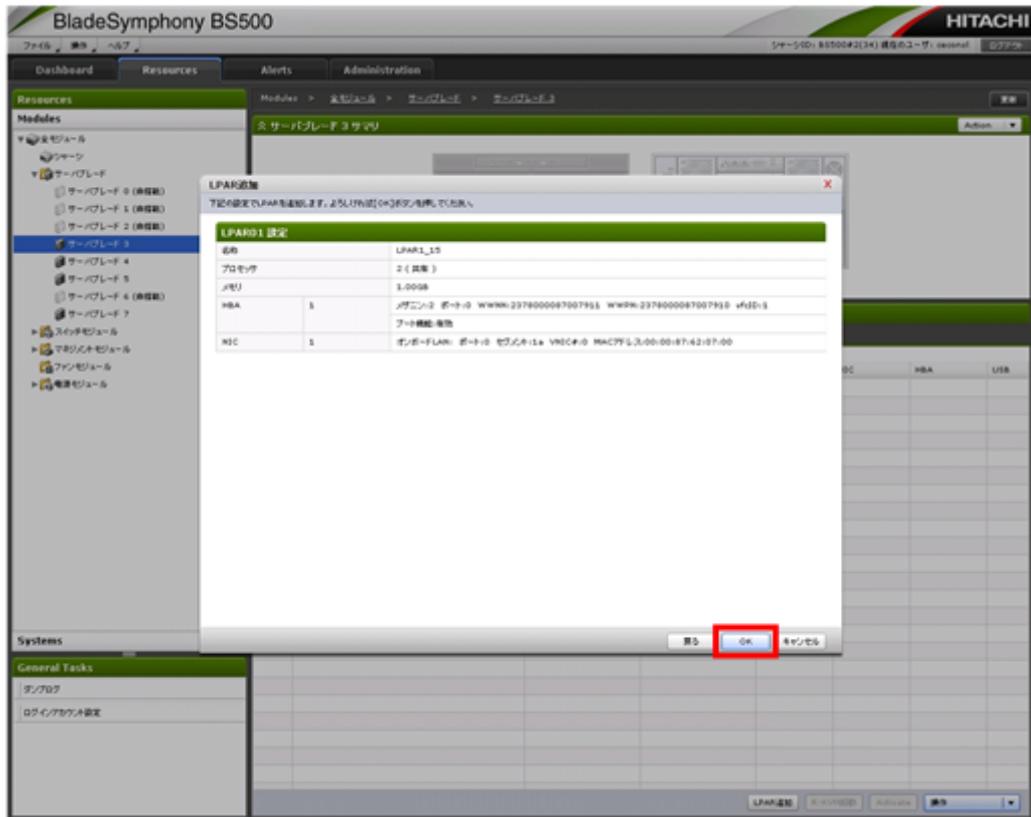
- ネットワークセグメントを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



- [確認]ボタンをクリックします。



8. [OK]ボタンをクリックします。



3.1.9 ブートオーダーの設定

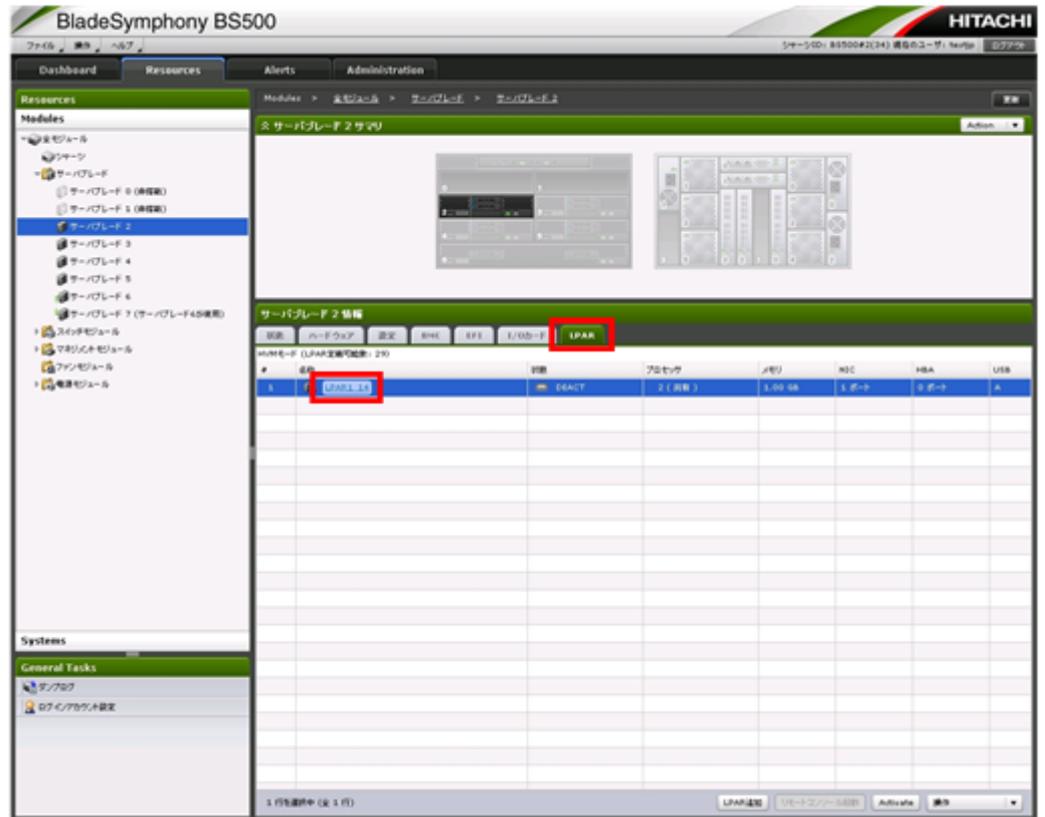
【マネジメントモジュールファームウェアバージョン A0125 以降】

本操作が可能なサーバブレードと HVM ファームウェアバージョンの組み合わせを次に示します。

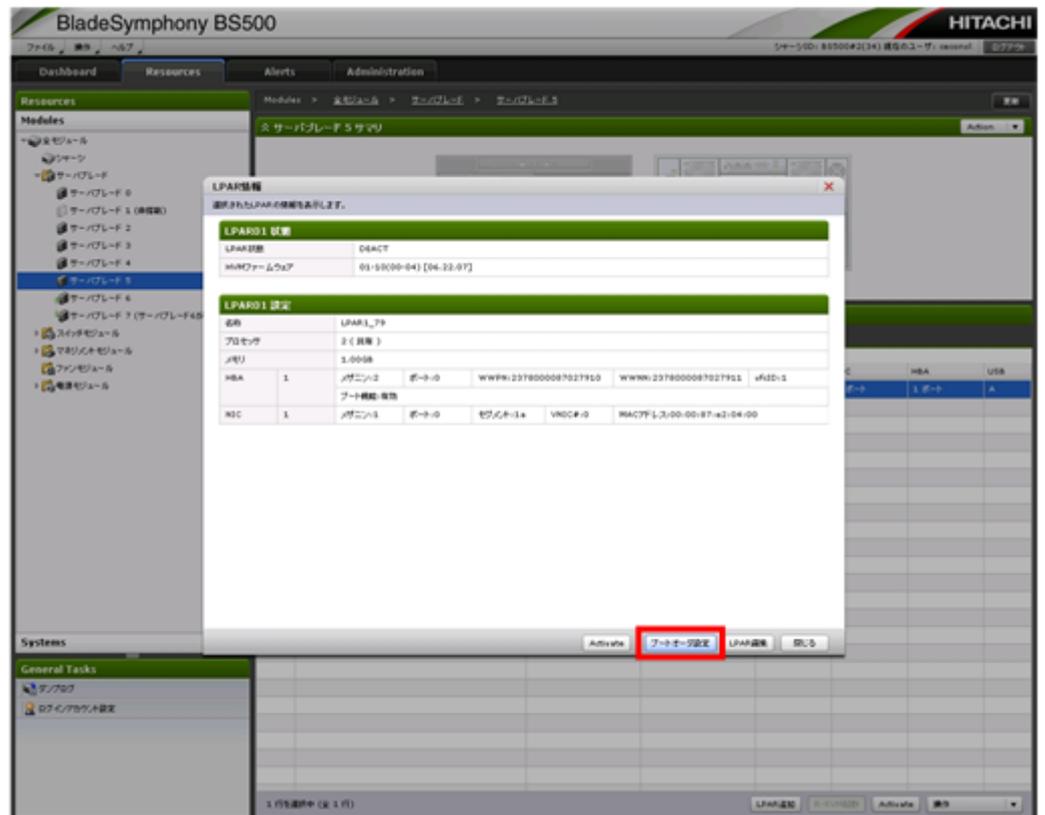
サーバブレード	HVM ファームウェアバージョン
BS520H	01-0x～
BS520A	01-1x～
BS540A	01-2x～
BS520X	02-02～

マネジメントモジュールファームウェアバージョン A0124 以前では、本操作ができません。ブートオーダーの設定については、『HVM ユーザーズガイド』を参照してください。

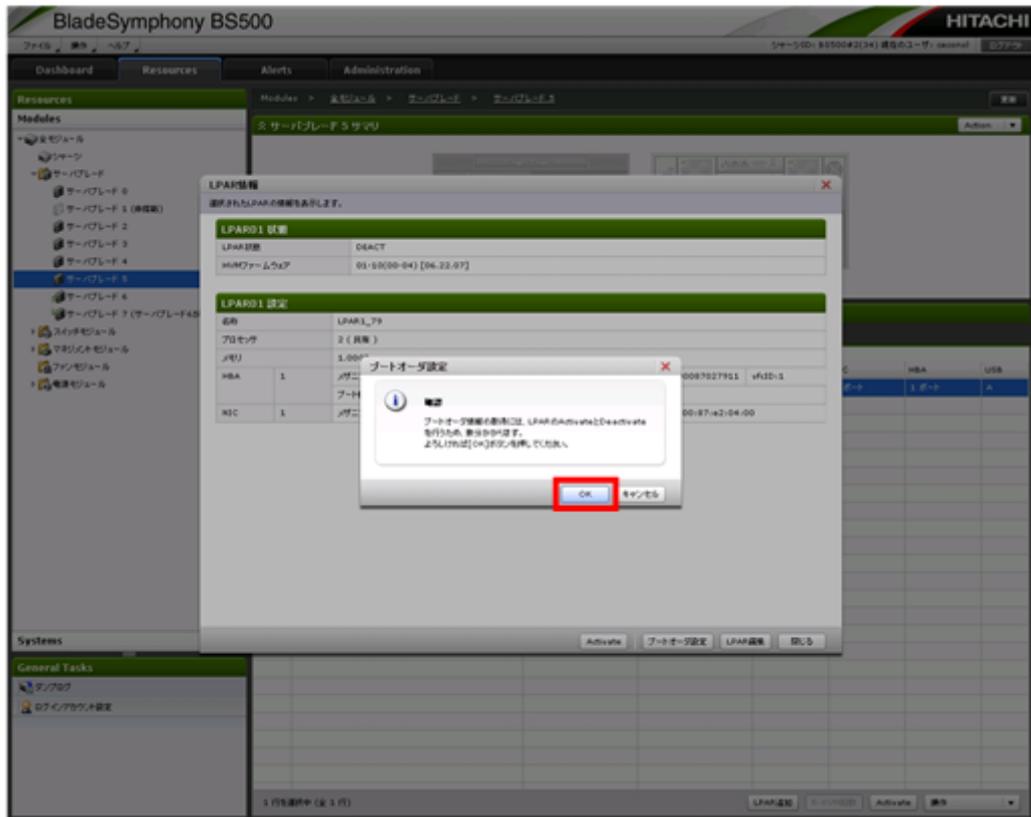
1. [LPAR]タブでブートオーダを設定する LPAR を選択し、LPAR 名称をクリックします。



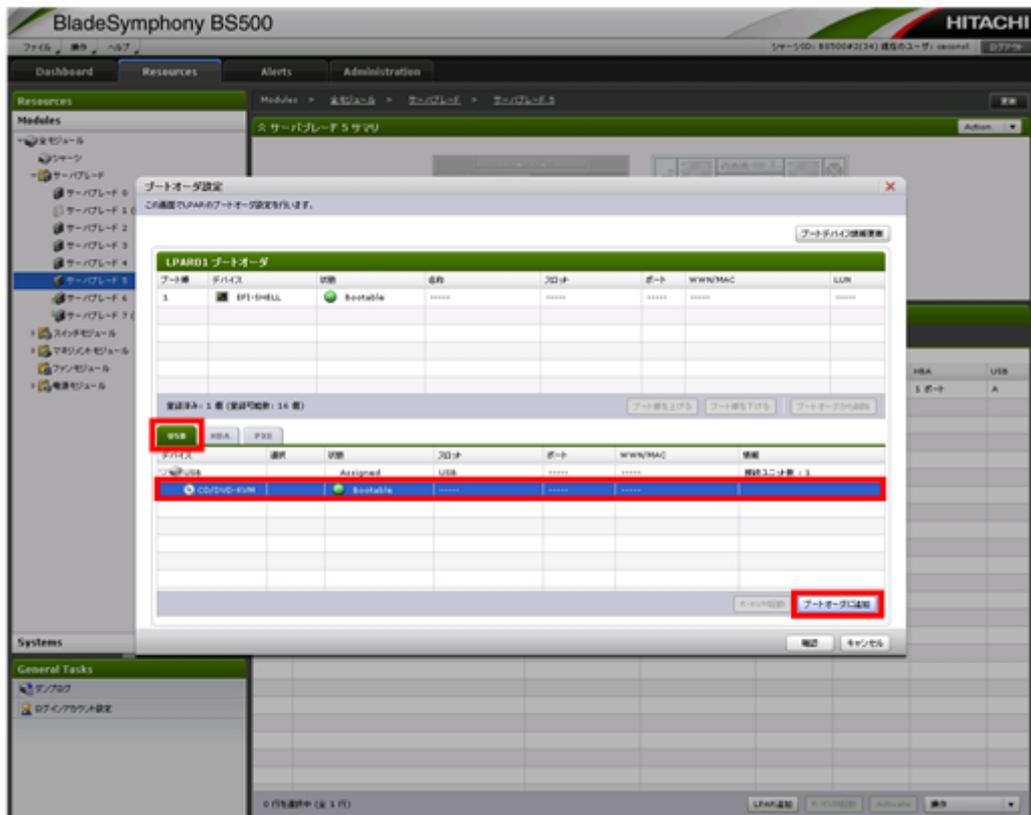
2. [ブートオーダ設定]ボタンをクリックします。



- [OK]ボタンをクリックします。



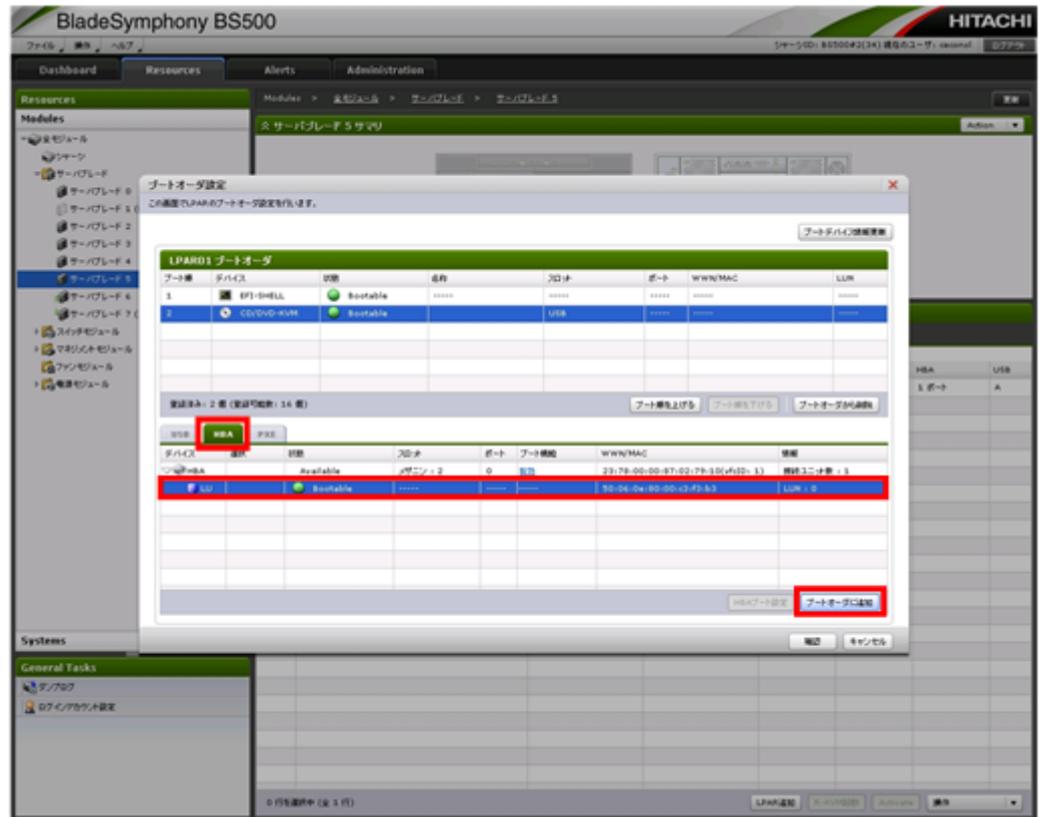
- [USB]タブで追加するデバイスを選択し、[ブートオーダに追加]ボタンをクリックします。



重要

- CD/DVD デバイスが認識されない場合は、仮想ドライブの設定を行ってください。

5. [HBA]タブで追加するデバイスを選択し、[ブートオーダに追加]ボタンをクリックします。



重要

- HBA デバイスが認識されない場合は、ディスクの設定を見直してください。

参考

- ブートモードが UEFI Mode の場合は、OS インストールを行うことにより、HBA デバイスが自動的にブートオーダに追加されるため、HBA デバイスを追加する必要はありません。

6. 以下のようにブートオーダを変更し、[確認]ボタンをクリックします。

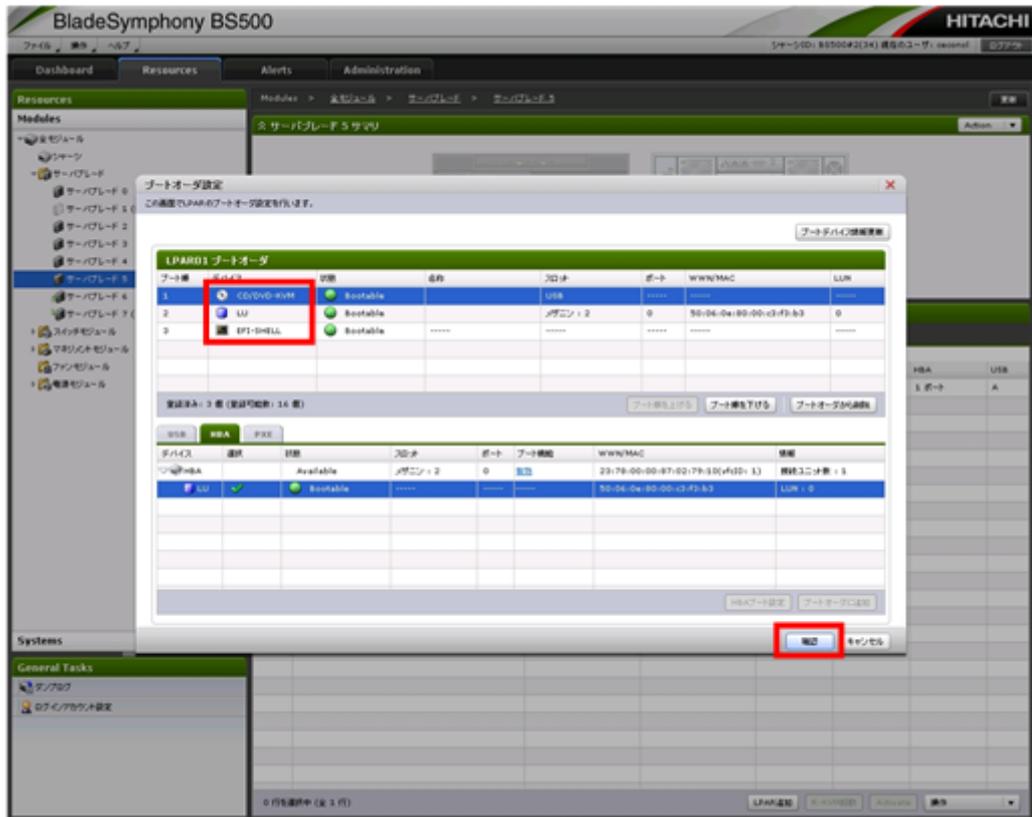
ブートモードが Legacy Mode の場合は、

- LU
- CD/DVD-KVM
- EFI-SHELL

ブートモードが UEFI Mode の場合は、

- CD/DVD-KVM

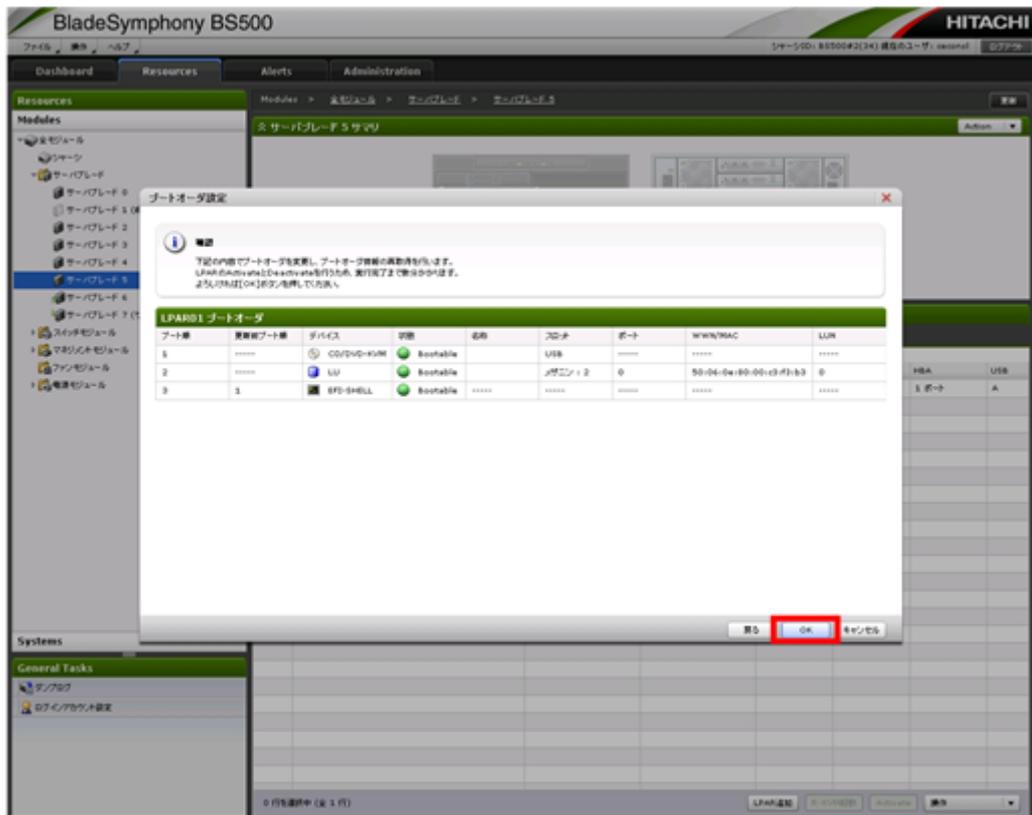
○ EFI-SHELL



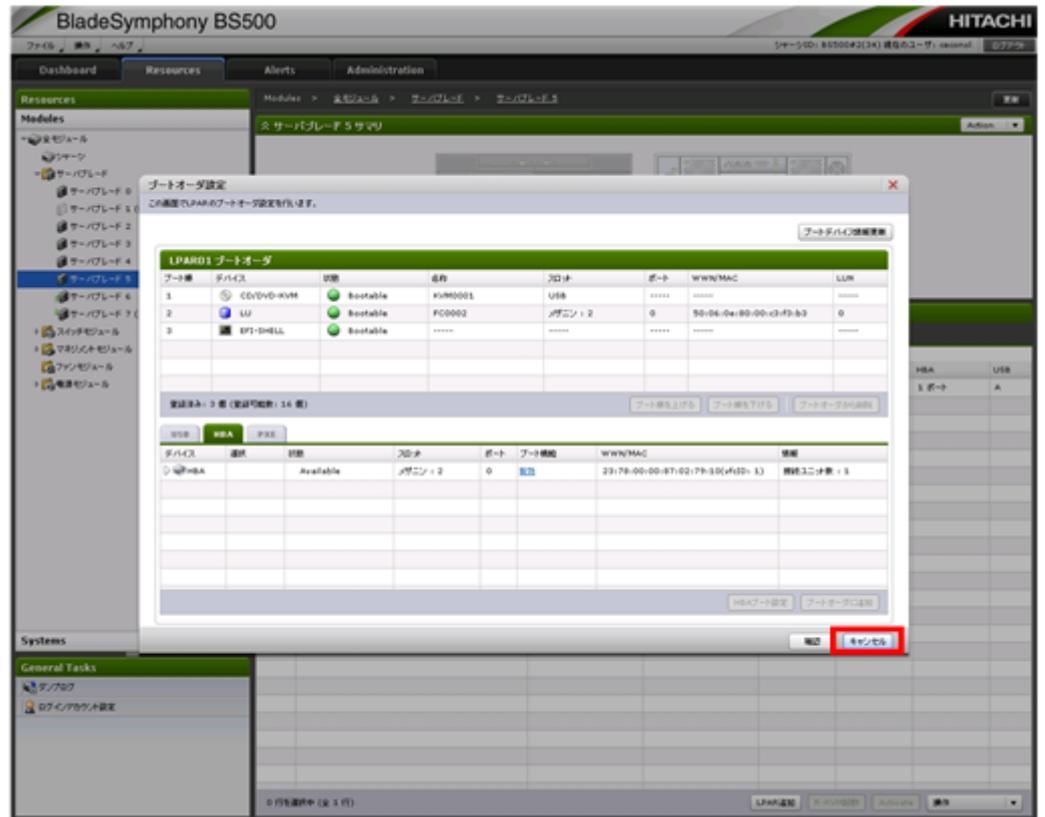
重要

- ・ CD/DVD デバイスがブートデバイスから消えてしまった場合は、再度ブートオーダーに追加してください。

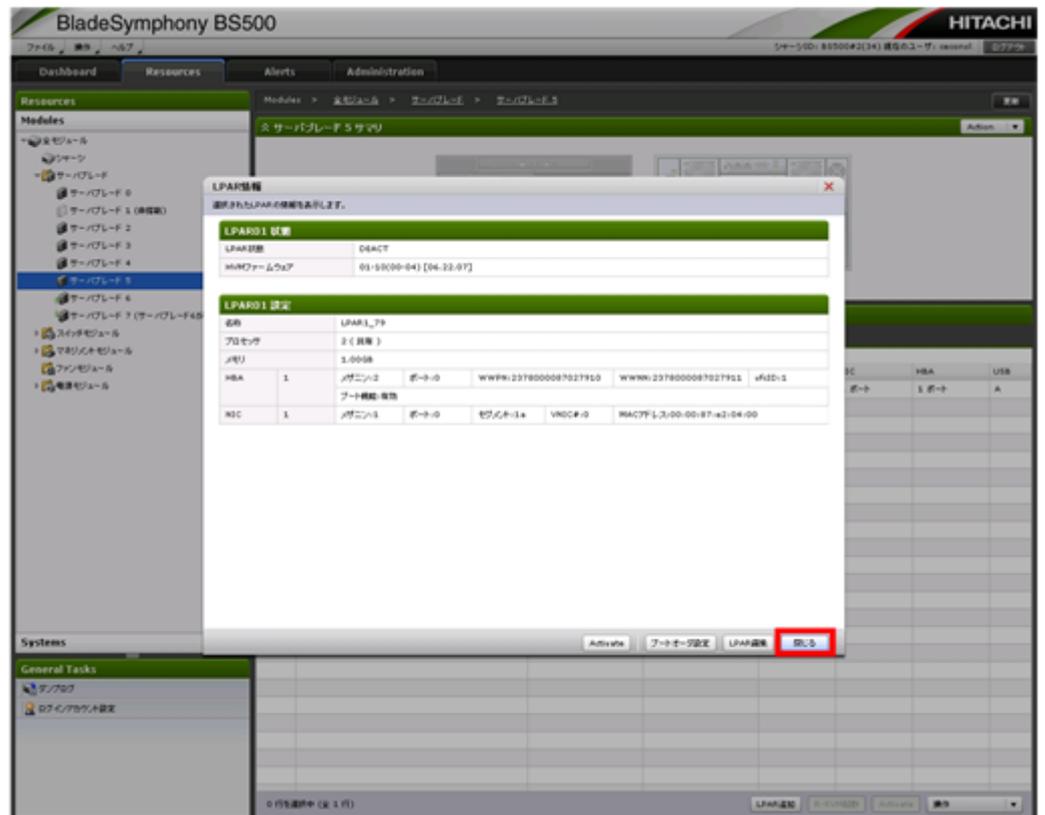
7. [OK]ボタンをクリックします。



- [キャンセル]ボタンをクリックします。



- [閉じる]ボタンをクリックします。

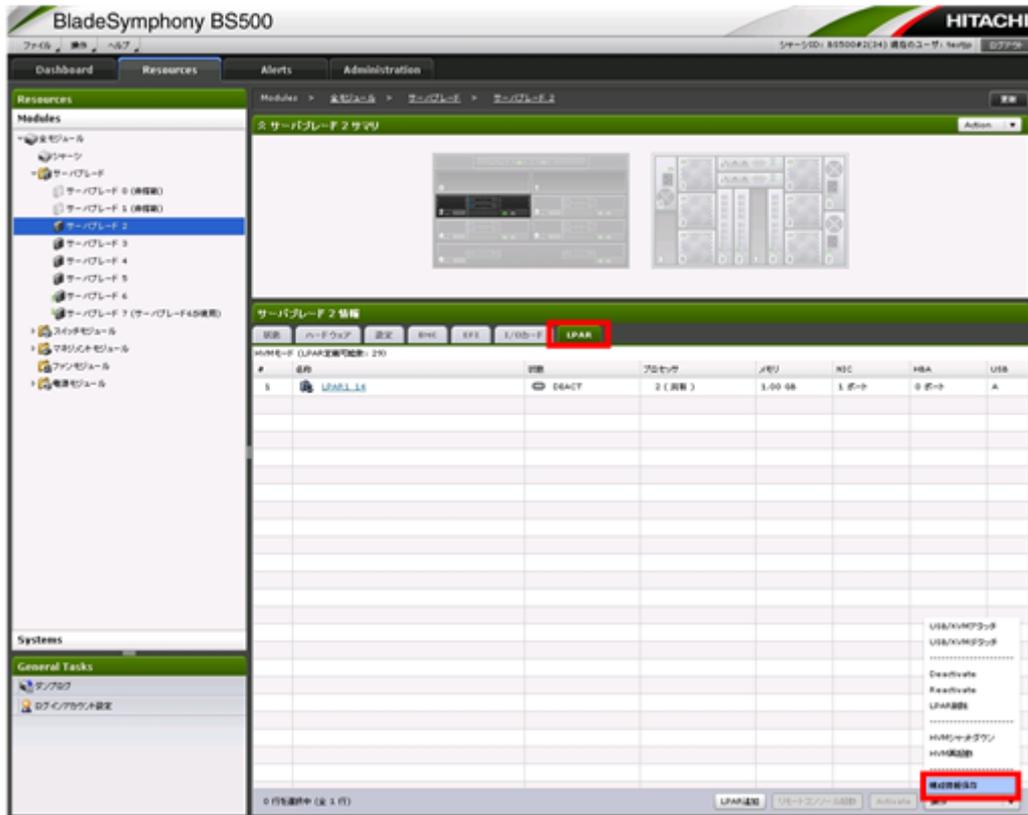


3.1.10 構成情報の保存

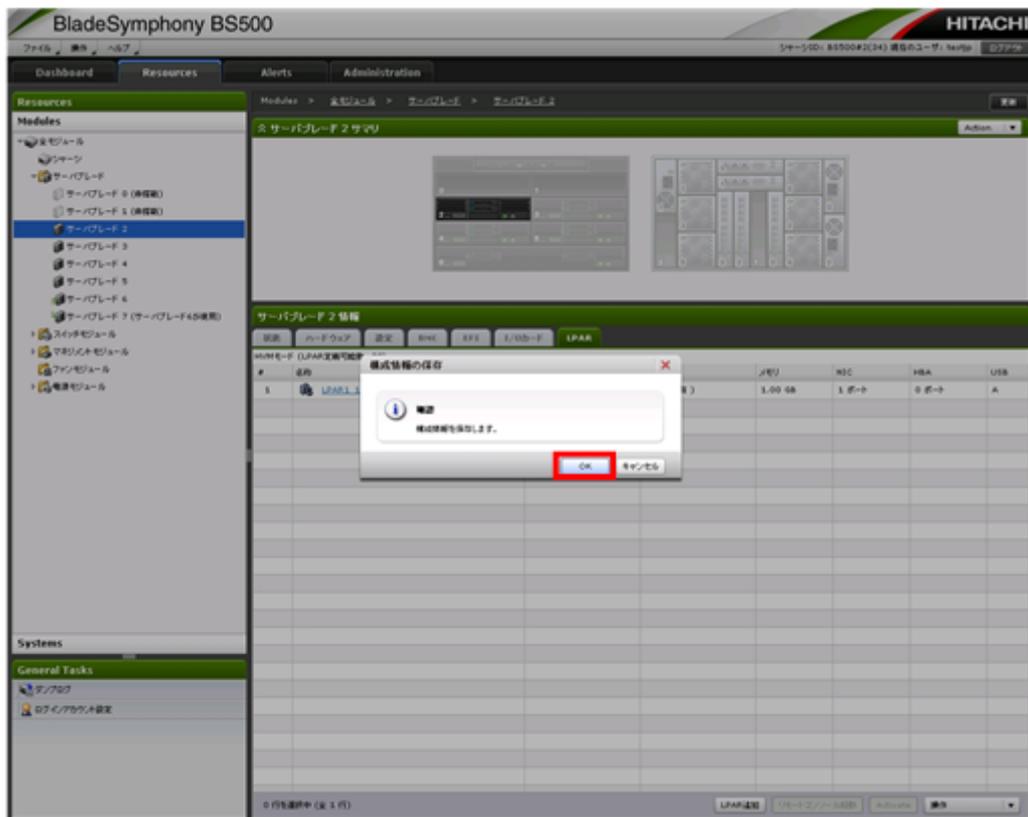
- 構成情報を保存すると次回の HVM 起動時に、保存した構成情報で HVM が起動します。

- 保存する前に HVM をシャットダウンもしくは再起動した場合には、設定した値は消失します。

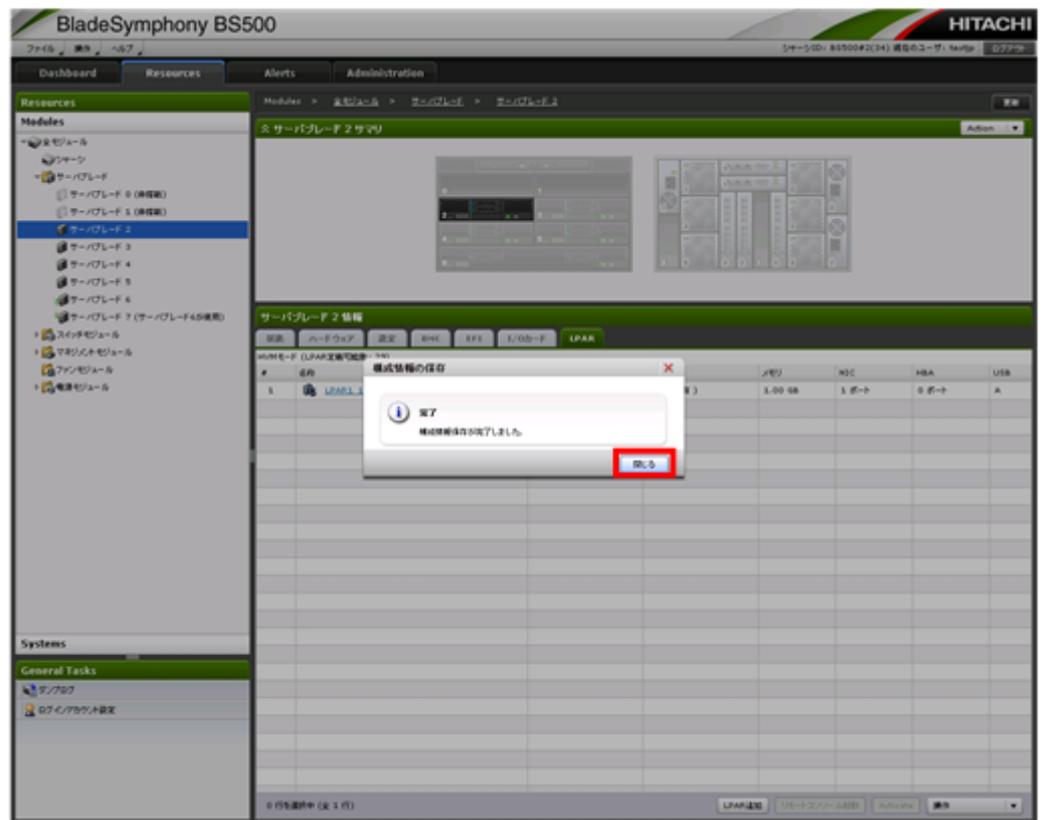
- [LPAR]タブを選択し、[操作]の[構成情報保存]を選択します。



- [OK]ボタンをクリックし、構成情報を保存します。

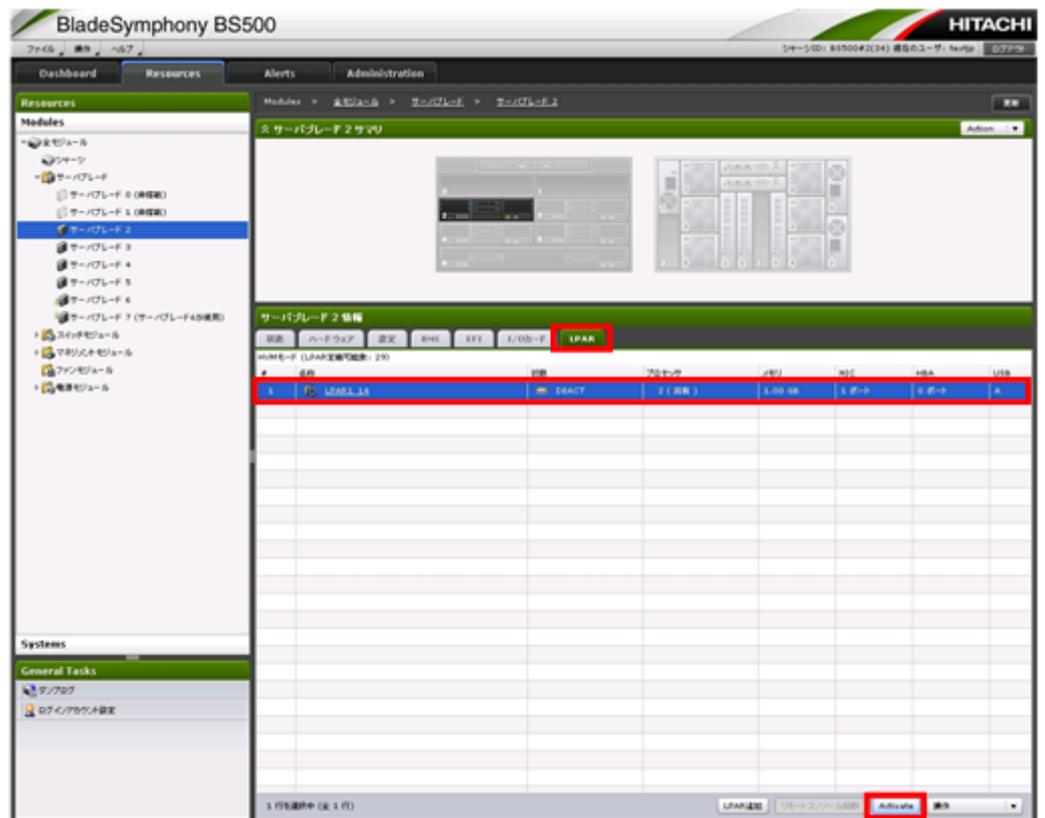


3. [閉じる]ボタンをクリックします。

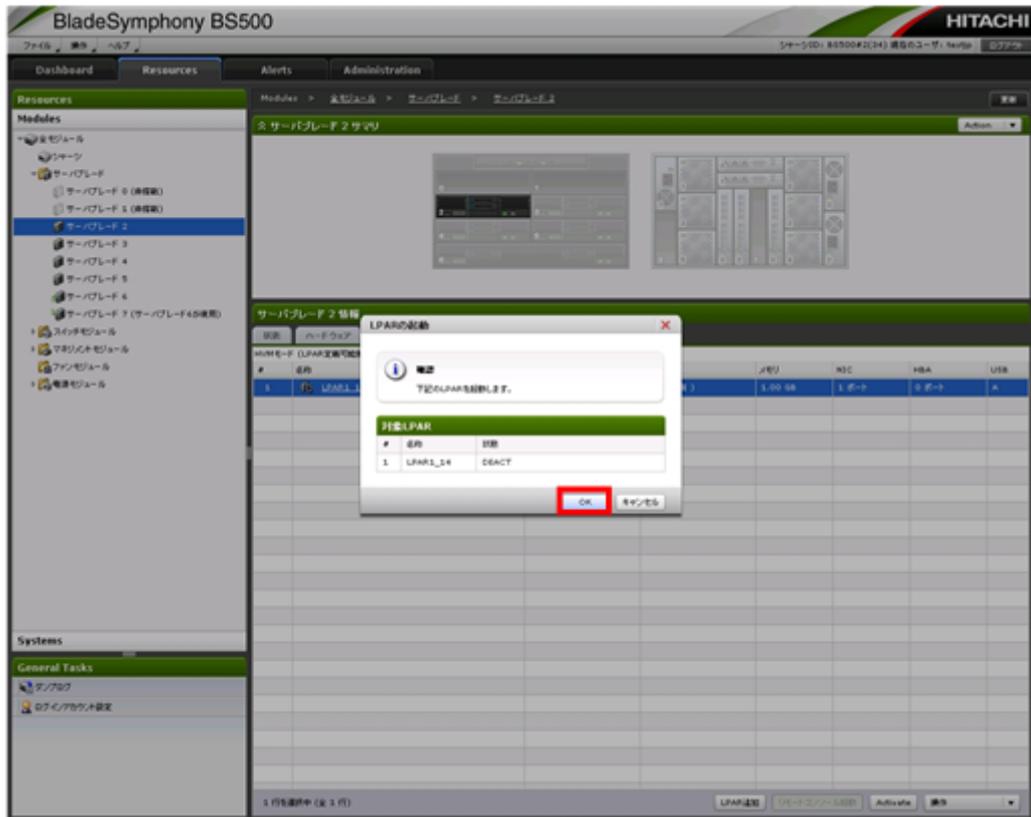


3.1.11 LPAR の起動

1. [LPAR]タブで起動する LPAR を選択し、[Activate]ボタンをクリックします。



- [OK]ボタンをクリックします。



- リモートコンソール画面に「Press any key to boot from CD or DVD」が表示された場合、すぐに任意のキーを押します。

参考

- キーを押すタイミングが遅いと、DVD-ROM からインストールツールが起動しない場合があります。その場合は、一度 LPAR を Deactivate し、再度 Activate してください。
- 任意のキーを複数回押した場合、「Windows Boot Manager」が起動する場合があります。「Windows Boot Manager」が起動した場合は「Windows Setup [EMS Enabled]」を選択し、セットアップを続行してください。

3.2 停止方法

ここでは、サーバブレードの停止方法について説明します。OS が正常に稼働しているときは、「LPAR の停止」「(1)OS のシャットダウン」を実行してください。

3.2.1 LPAR の停止

(1) OS のシャットダウン

OS のシャットダウン操作を実行してください。OS のシャットダウン処理が終了すると、LPAR は Deactivate 状態になります。

(2) LPAR の Deactivate

LPAR の Deactivate 操作は、Basic モードでのサーバブレードの電源 OFF に相当するため、この操作を行う場合は注意が必要です。特に、OS 起動中などデータアクセス中に当該操作を行うとディスク破損の恐れがあるため、OS のシャットダウン操作を実行してください。

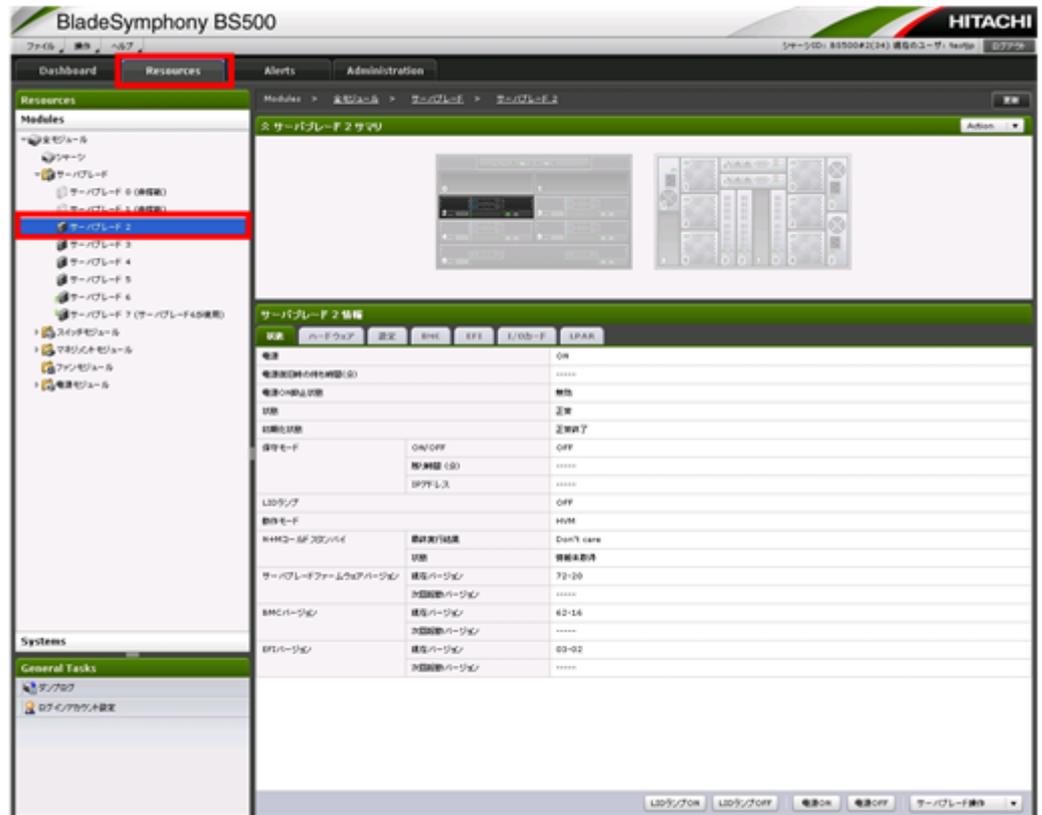
1. Web ブラウザから Web コンソールを使用する場合は、Web ブラウザに[https://マネジメントモジュールの IP アドレス/]を入力します。BS500 Web コンソール管理ツールを使用する場合は、BS500 Web コンソール管理ツールを起動して、マネジメントモジュールの IP アドレスと https で接続するポート番号を入力します。

項目	工場出荷時の初期値
マネジメントモジュールの IP アドレス	192.168.0.1
https で接続するポート番号	443

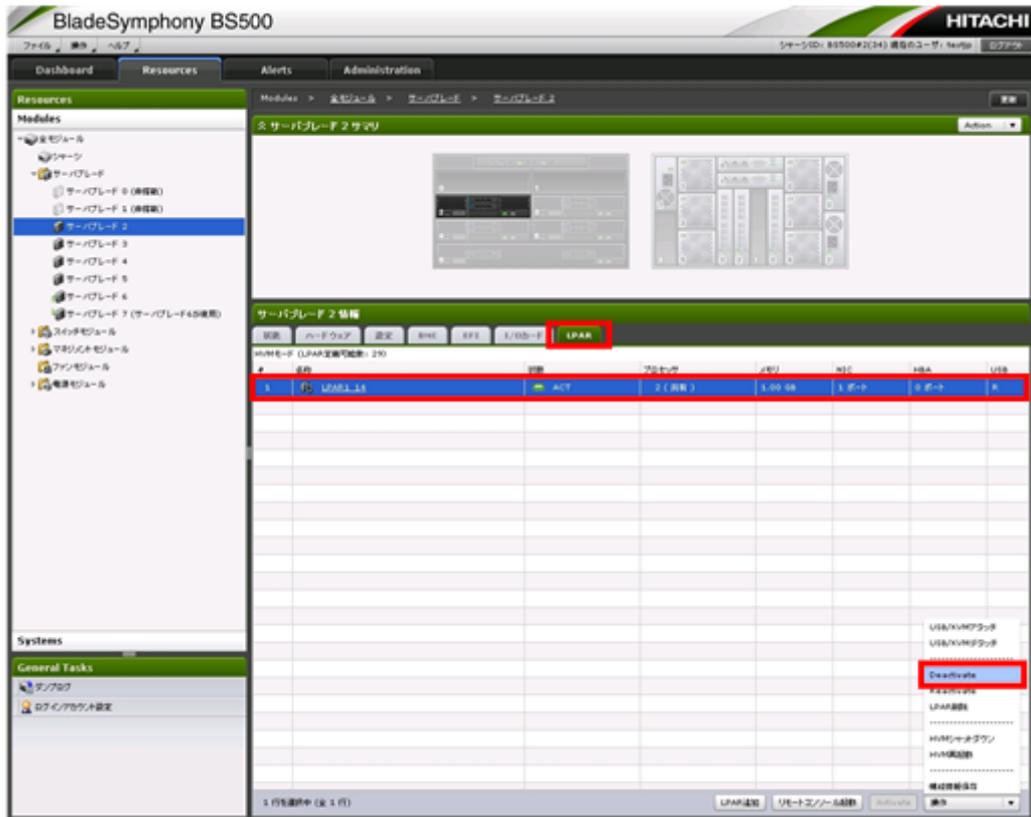
2. マネジメントモジュールの Web コンソールに Login します。

項目	工場出荷時の初期値
ユーザ ID	administrator
パスワード	password

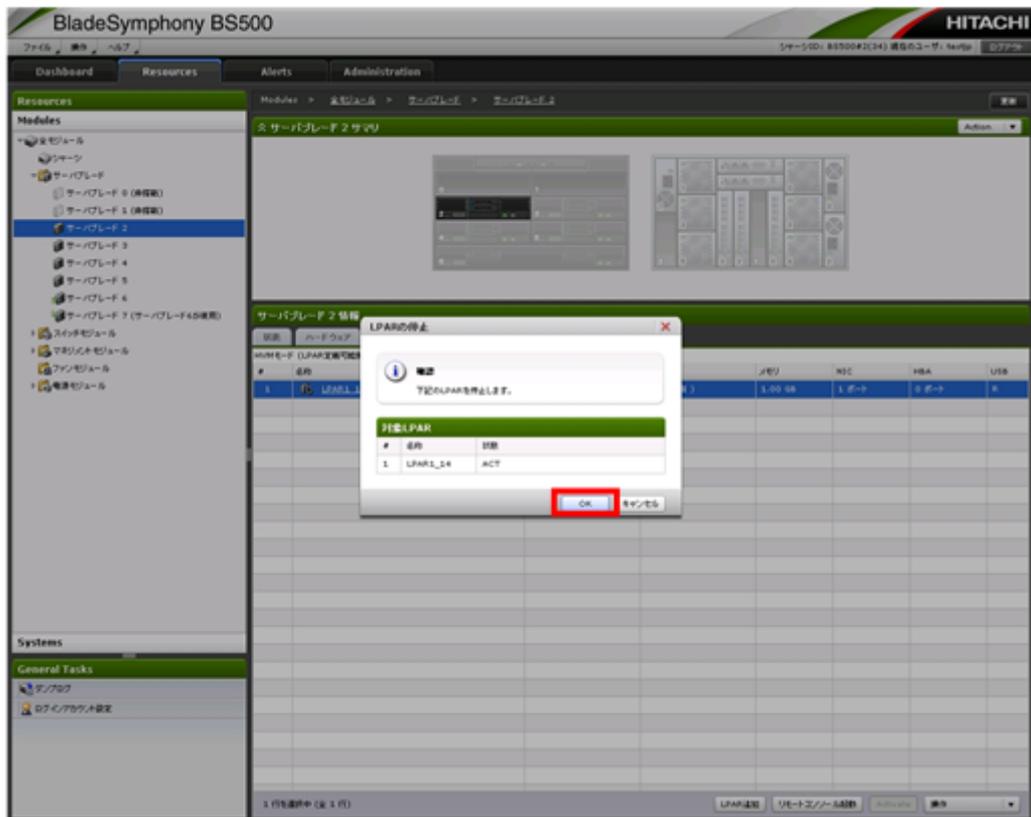
3. メニュー画面の[Resources]タブのメニューツリーから、サーバブレードを選択します。



4. [LPAR]タブで停止する LPAR を選択し、[操作]の[Deactivate]を選択します。



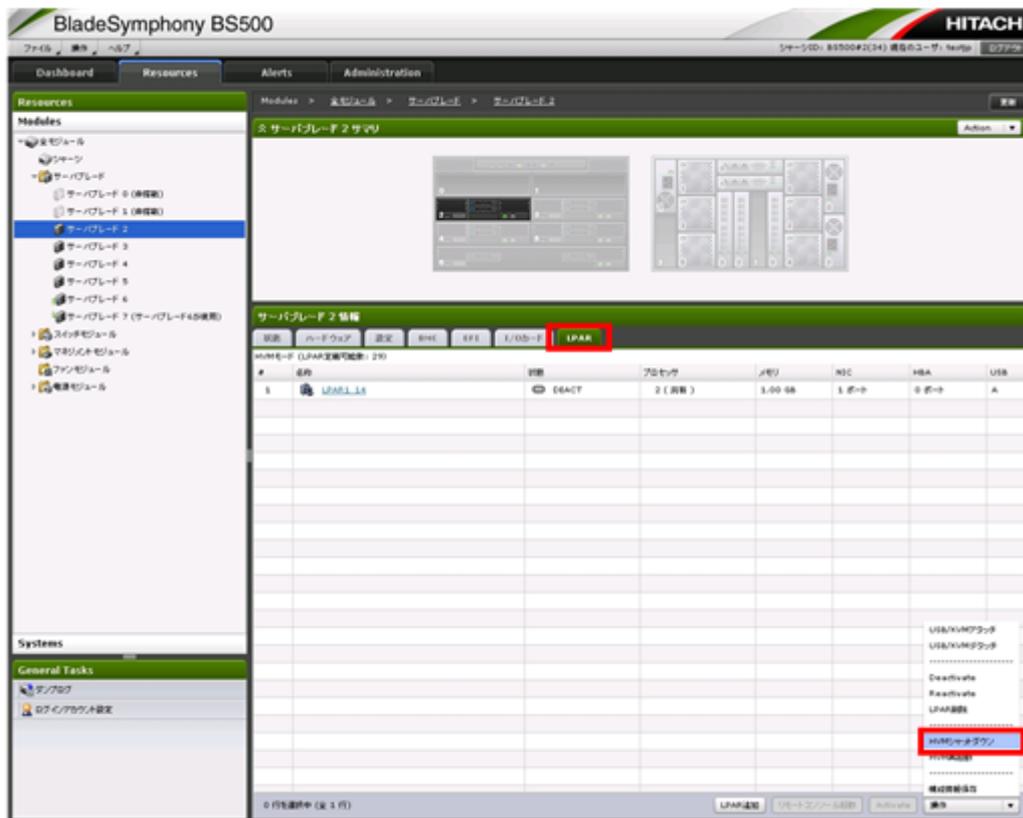
5. [OK]ボタンをクリックします。



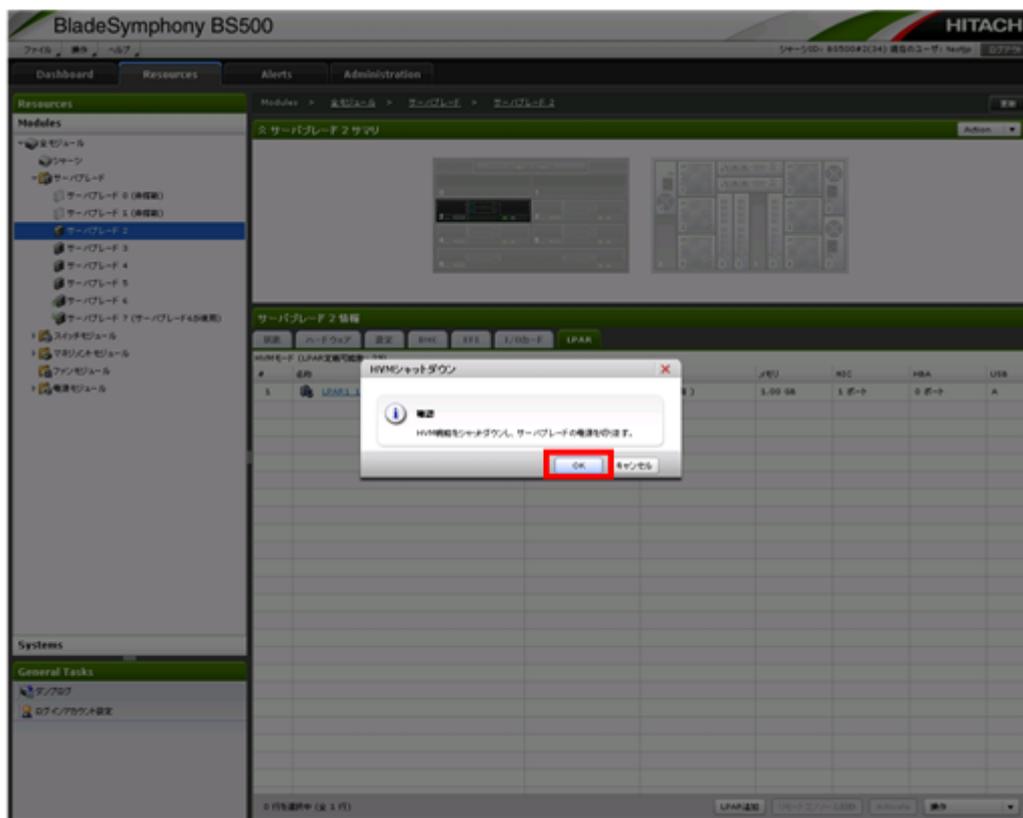
3.2.2 HVM の停止

HVM を停止するためには、すべての LPAR を停止する必要があります。LPAR の停止方法については、「LPAR の停止」を参照してください。

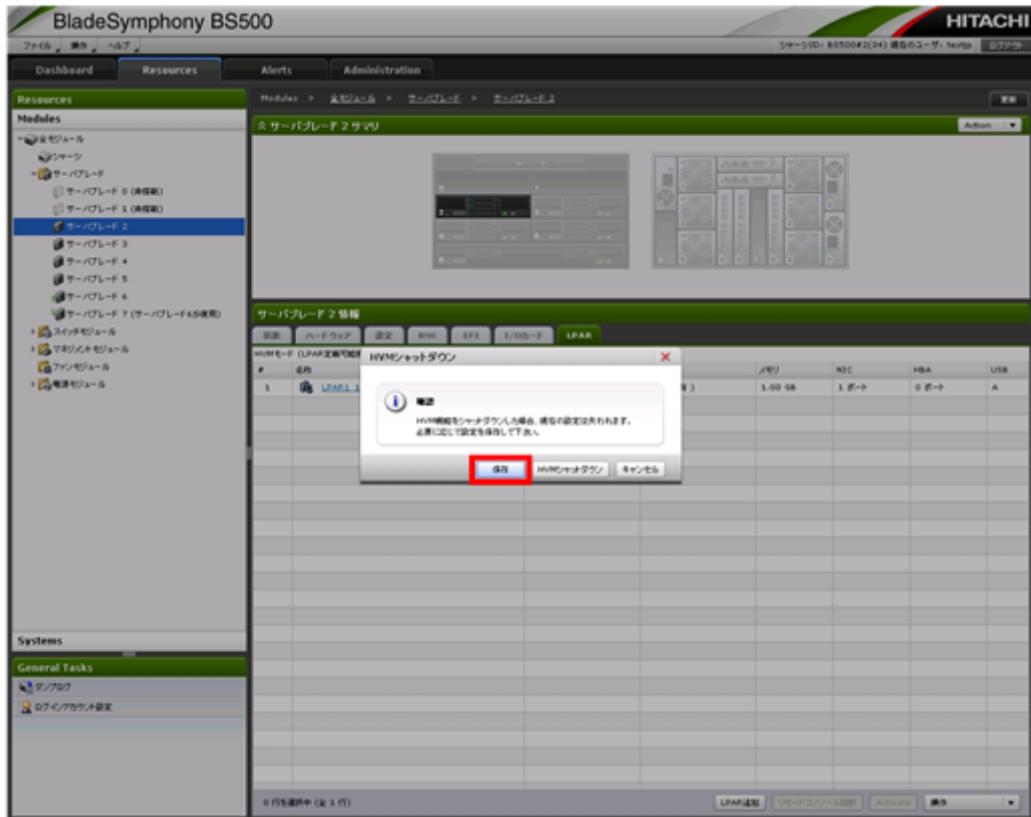
1. [LPAR]タブを選択し、[操作]の[HVM シャットダウン]を選択します。



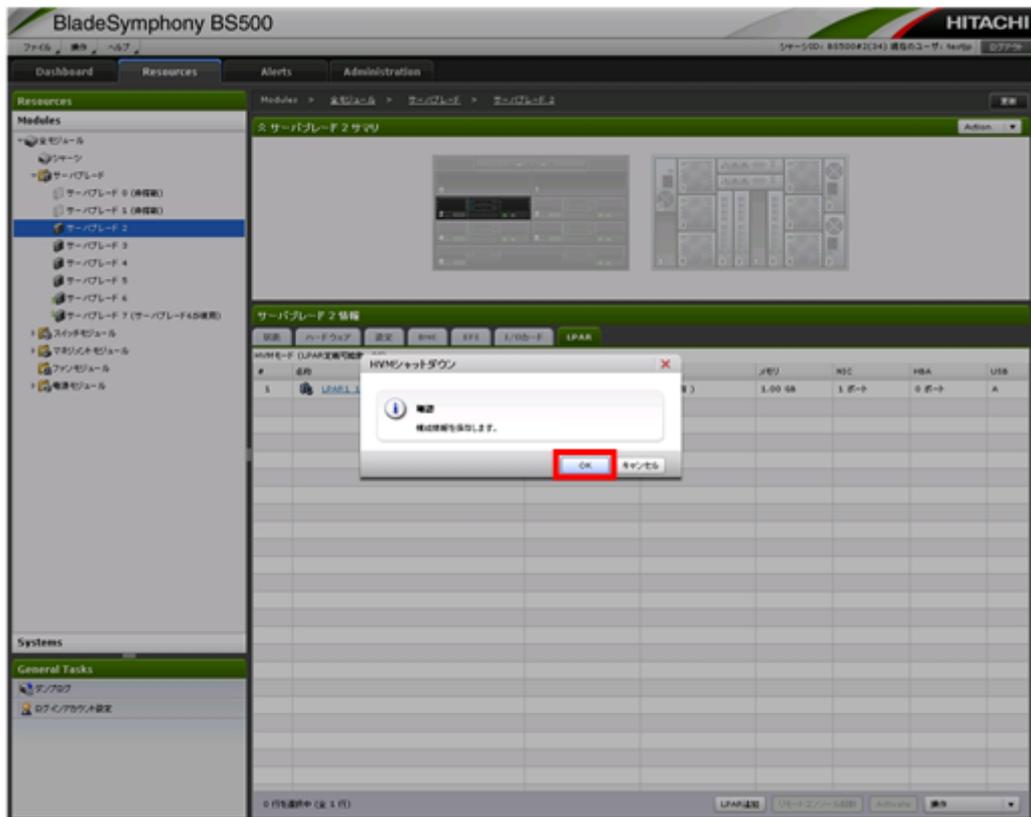
2. [OK]ボタンをクリックします。



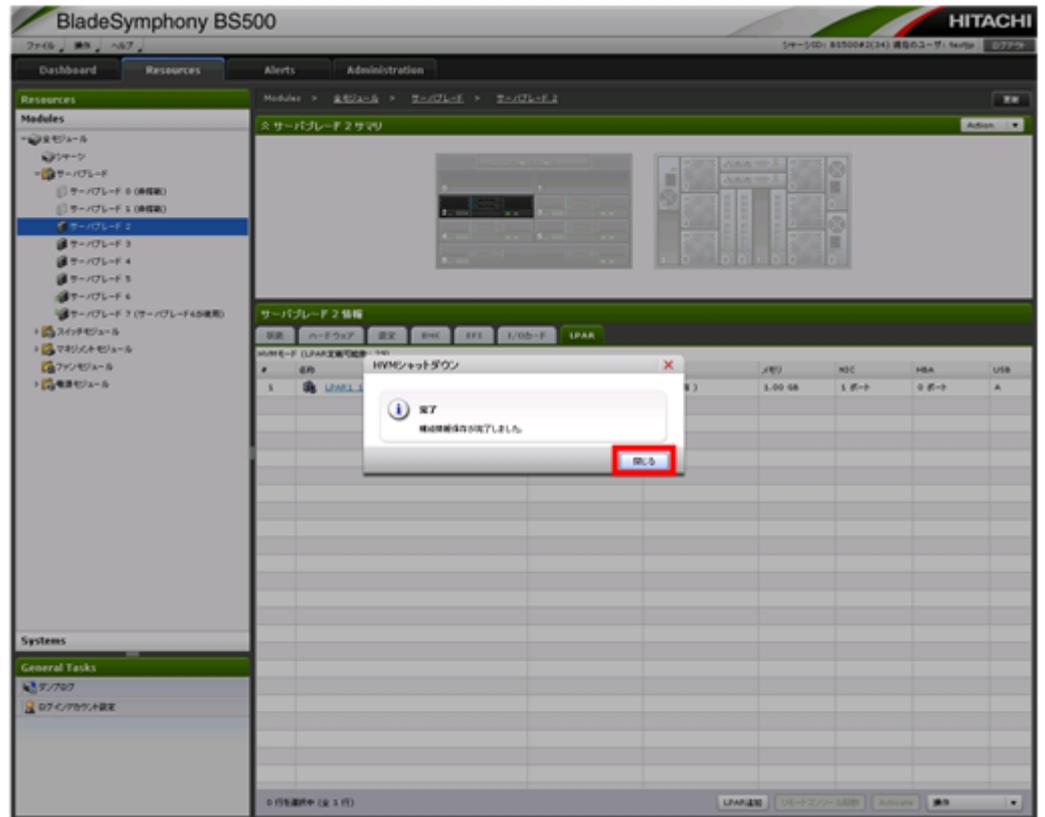
3. [保存]ボタンをクリックします。



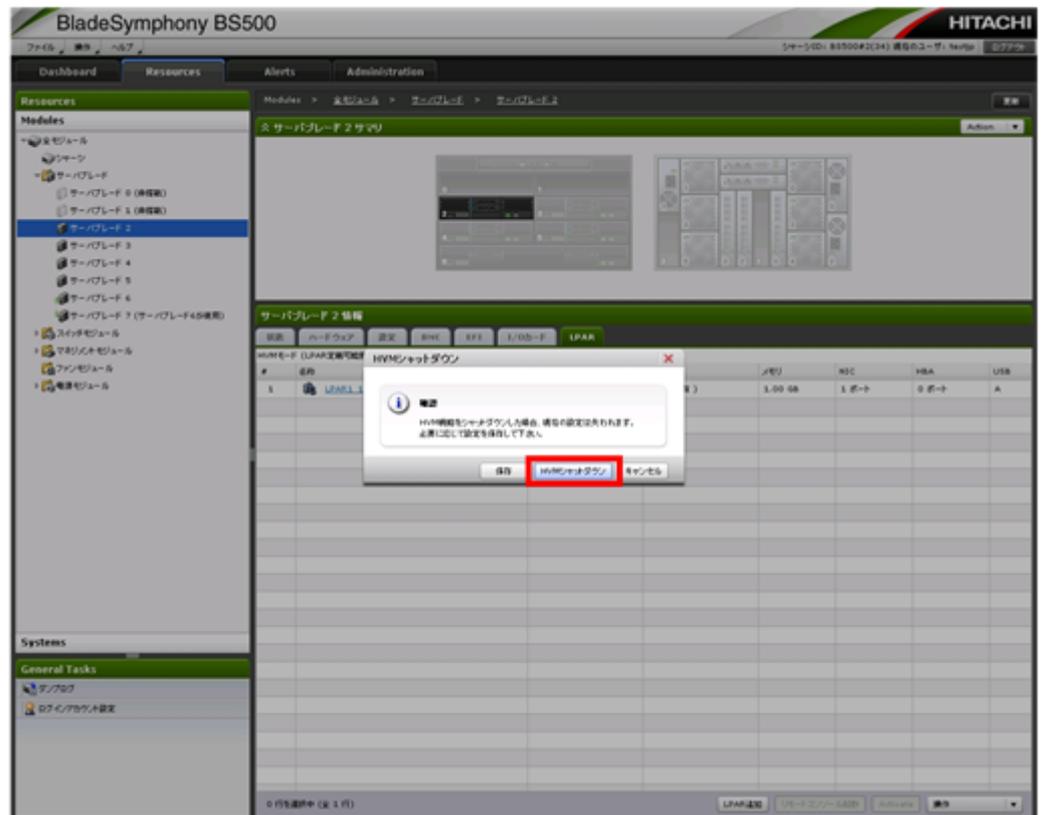
4. [OK]ボタンをクリックし、構成情報を保存します。



5. [閉じる]ボタンをクリックします。



6. [HVM シャットダウン]ボタンをクリックします。



7. [閉じる]ボタンをクリックします。

